



日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年10月25日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-326019

出 願 人

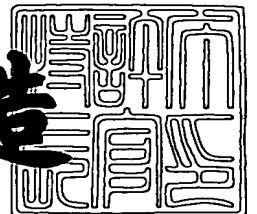
Applicant(s):

山一電機株式会社

2001年 5月25日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3043196

【書類名】	特許願
【整理番号】	3113-01
【提出日】	平成12年10月25日
【あて先】	特許庁長官 殿
【国際特許分類】	H01R 13/629
	H01R 23/68
	G06K 19/00
【発明の名称】	カードコネクタ
【請求項の数】	8
【発明者】	
【住所又は居所】	東京都大田区中馬込3丁目28番7号 山一電機株式会 社内
【氏名】	高田 敏文
【発明者】	
【住所又は居所】	東京都大田区中馬込3丁目28番7号 山一電機株式会 社内
【氏名】	大家 正明
【発明者】	
【住所又は居所】	東京都大田区中馬込3丁目28番7号 山一電機株式会 社内
【氏名】	五十嵐 稔
【特許出願人】	
【識別番号】	000177690
【氏名又は名称】	山一電機株式会社
【代理人】	
【識別番号】	100077481
【弁理士】	
【氏名又は名称】	谷 義一

【選任した代理人】

【識別番号】 100088915

【弁理士】

【氏名又は名称】 阿部 和夫

【選任した代理人】

【識別番号】 100106998

【弁理士】

【氏名又は名称】 橋本 傳一

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2000-111321

【出願日】 平成12年 4月12日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 013424

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9910479

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 カードコネクタ

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 側面に切欠きが形成されかつ底面に複数の接触パッドが設けられているカードを、前記接触パッドがコネクタハウジング内に配されたコンタクト端子と当接するように、コネクタハウジング内に保持するカードコネクタにおいて、

前記カードのコネクタ内への挿入に伴なってカード挿入方向に移動しかつカードイジェクト操作に応動してカードイジェクト方向に移動してカードをイジェクトするイジェクト部材を有するイジェクト機構と、

前記カードの切欠きに係止される係止部および前記イジェクト部材に固定される固定部を有し、弾性復帰時に前記係止部が前記カードの切欠きに係止されるよう前記カードに当接する方向に付勢されている弾性ロック片と、

カードイジェクトの際には前記係止部が前記切欠きから離間されるよう前記弾性ロック片を案内して弾性変形させ、カード挿入の際には前記弾性ロック片を前記弾性変形から復帰させて前記係止部を前記カードの切欠きへ係合させるロック片案内手段と、

を備えることを特徴とするカードコネクタ。

【請求項 2】 前記ロック片案内手段は、
前記弾性ロック片から突出される突起部と、

前記コネクタハウジングに形成され、前記イジェクト部材のカード挿脱方向の動きに対応して前記突起部を案内するテーパ面が形成された案内壁と、

を備えることを特徴とする請求項 1 に記載のカードコネクタ。

【請求項 3】 前記弾性ロック片は、コネクタハウジングの側壁部に設けられ、カード側面を押圧する方向に付勢されており、かつ前記弾性ロック片の突起部はコネクタハウジングの上側または下側に突出しており、

前記案内壁のテーパ面は、挿入されたカードの側面に対して傾斜されていることを特徴とする請求項 2 に記載のカードコネクタ。

【請求項 4】 前記弾性ロック片は、コネクタハウジングの側壁部近傍に設

けられ、カード底面または上面を押圧する方向に付勢されており、前記弾性ロック片の突起部はコネクタハウジングの幅方向に突出しており、

前記案内壁のテーパ面は、挿入されたカードの底面に対して傾斜されていることを特徴とする請求項 2 に記載のカードコネクタ。

【請求項 5】 前記弾性ロック片は、コネクタハウジングの側壁部に設けられ、前記カードの幅方向に変位可能であり、

前記ロック片案内手段は、カードイジェクトの際に前記弾性ロック片の一部に当接して弾性ロック片を弾性変形させる、前記コネクタハウジングから突出された部材であることを特徴とする請求項 1 に記載のカードコネクタ。

【請求項 6】 前記弾性ロック片の係止部は、略フック形状を呈していることを特徴とする請求項 1 乃至 5 の何れかに記載のカードコネクタ。

【請求項 7】 前記切欠きが形成されていない第 2 のカードが挿入された場合、前記弾性ロック片の係止部は、第 2 のカードの壁面を押圧することによってカード脱落方向へのブレーキ力を作用させるブレーキ片として機能することを特徴とする請求項 1 に記載のカードコネクタ。

【請求項 8】 前記切欠きが形成されていない第 2 のカードが挿入された場合、前記突起部が他の部材と干渉しないようなスペースをコネクタハウジングに形成したことを特徴とする請求項 2 乃至 4 の何れかに記載のカードコネクタ。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

この発明は、携帯電話機、電話機、PDA (personal digital assistance)、携帯型オーディオ、カメラ等の電子機器に取り付けられるカードコネクタに関し、さらに詳しくはコンパクトな機構で IC カードの脱落を確実に防止するための構造に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

携帯電話機、電話機、PDA、カメラ等の電子機器においては、CPU あるいはメモリ用の IC が内蔵された、SIM (subscriber identity module) カード

、MMC (multi media card) カード、SD (super density) カード、メモリ
 ステック (商標)、スマートメディア (商標) などの IC カードを装着させるこ
 とで、各種の機能拡張などを行うようにしている。

【0 0 0 3】

このような IC カードを着脱自在に装着するためのコネクタ構造においては、
 コネクタが装着される電子機器側の各種信号処理回路および電源回路と接続され
 た複数のコンタクト端子をコネクタハウジング内に設け、これら複数のコンタク
 ト端子を、装填された IC カードの表または裏面に形成された複数のコンタクト
 パッドと接触させ、これらの接触によって IC カードをコネクタに取り付けられ
 た電子機器と電氣的に接続するようにしている。

【0 0 0 4】

このようなカードコネクタにおいては、装着されたカードをコネクタから取り
 出すためのイジェクト機構が具えられているものが多い。

【0 0 0 5】

そして、この種のイジェクト機構が備えられたカードコネクタにおいては、イ
 ジェクト動作の際にカードが急激に飛び出してカードがコネクタから脱落するこ
 とを防止するため、あるいはカード装填時予期しない外力などによりカードがコ
 ネクタから脱落することを防止するために、コネクタハウジングの所定箇所に適
 宜の弾性ブレーキ片を固定し、このブレーキ片によってカードに接圧を作用させ
 ることによってカードが脱落する方向と逆方向に摩擦力を発生させるようにした
 ものがある。

【0 0 0 6】

【発明が解決しようとする課題】

しかし、カードコネクタにおいては、当然のことながら、カードをコネクタか
 ら取り出さなくてはならないので、ブレーキ片の接圧を必要以上に大きくするこ
 とはできず、このため従来のブレーキ片による接圧によるカード脱落防止機構で
 は、カードを確実に脱落から防止することは不可能であり、上記原因あるいは衝
 撃などによりカードを簡単に脱落させてしまう。

【0 0 0 7】

また、昨今は、カードコネクタ自体の、小型化、低背化、軽量化が強く望まれており、カード脱落防止機構としても、よりコンパクトかつ軽量の構成が望まれている。

【 0 0 0 8 】

この発明はこのような実情に鑑みてなされたもので、装填されたカードを、コンパクトな機構によって確実に保持し、カードの脱落が発生することのないカードコネクタを提供することを解決課題とする。

【 0 0 0 9 】

【課題を解決するための手段】

この発明の一形態では、側面に切欠きが形成されかつ底面に複数の接触パッドが設けられているカードを、前記接触パッドがコネクタハウジング内に配されたコンタクト端子と当接するように、コネクタハウジング内に保持するカードコネクタにおいて、前記カードのコネクタ内への挿入に伴ってカード挿入方向に移動しかつカードイジェクト操作に応動してカードイジェクト方向に移動してカードをイジェクトするイジェクト部材を有するイジェクト機構と、前記カードの切欠きに係止される係止部および前記イジェクト部材に固定される固定部を有し、弾性復帰時に前記係止部が前記カードの切欠きに係止されるよう前記カードに当接する方向に付勢されている弾性ロック片と、カードイジェクトの際には前記係止部が前記切欠きから離間されるよう前記弾性ロック片を案内して弾性変形させ、カード挿入の際には前記弾性ロック片を前記弾性変形から復帰させて前記係止部を前記カード切欠きへ係合させるロック片案内手段とを備えることを特徴とする。

【 0 0 1 0 】

この発明では、カードにロック片係止用の切欠きを形成するとともに、カードの挿脱に伴ないカードと同様にスライドするイジェクト部材に弾性ロック片を取り付ける。弾性ロック片は、弾性復帰時に前記係止部が前記カードの切欠きに係止されるよう前記カードに当接する方向に付勢する。そして、ロック片案内手段によってイジェクト部材のカード挿脱方向の動きを前記弾性ロック片の係止部のカード接離方向の動きに変換し、カード挿入の際には前記係止部を前記切欠きへ

係合させ、カードイジェクトの際には前記係止部を前記切欠きから解放する。

【0011】

このようにこの発明では、カード自体の動きによってではなく、カードと同様の動きをするイジェクト部材の動きに基づいて弾性ロック片の係止部をカード接離方向に強制的に動かすようにしているので、弾性ロック片の係止部に例えば釣り針形状のようなカード抜脱方向への移動を完全に規制することができるロック構造を採用することができる。したがって、この発明では、カードが不注意や予期せぬ外力、衝撃などによって抜け落ちることがなくなり、カード装填中、カードを常に確実に保持することができる。

【0012】

また、この発明のカードコネクタにおいては、弾性ロック片は、弾性復帰時に前記係止部が前記カードの切欠きに係止されるよう前記カードに当接する方向に付勢されているので、切欠きが形成されていない第2のカードが挿入された場合、弾性ロック片の係止部は、第2のカードの壁面を押圧することによってカード脱落方向へのブレーキ力を作用させるブレーキ片として機能する。

【0013】

したがって、この発明では、切欠けが形成されているカードと切欠けが形成されていない2種類のカードを1つのコネクタで兼用することができる。

【0014】

【発明の実施の形態】

以下この発明の実施形態を添付図面にしたがって詳細に説明する。

【0015】

まず、実施形態のカードコネクタが装填可能な二種類のカードに関して説明する。

【0016】

図1は、二段カード10の例としてのSDカードの三面図を示している。中央の平面図はカード10をパッド面（裏面）側から見た図である。

【0017】

この二段カード10は厚さtの上側本体部11を有している。上側本体部11

の左先端部には誤挿入防止のための面取り部（切欠き）１２を有している。上側本体部１１の裏面側には、上側本体部１１より僅かに幅が狭い下側本体部１３が形成されている。すなわち、このカード１０は、両側端部に上側本体部１１の底面および下側本体部１３の底面による段差部１４がカード側端に沿って形成された二段構造となっている。下側本体部１３の先端側には複数の凹部１５が形成されており、これら凹部１５の底面に、カード内部のＩＣ回路に接続される複数の接触パッド１６が配設されている。カード１０の一方の側面には、ライトプロテクトスイッチ１７が設けられている。

【 0 0 1 8 】

ここで、この二段カード１０の上側本体部１１の他方の側面には、カードをロック固定するための切欠き（凹部）１８が形成されている。

【 0 0 1 9 】

図２は、一段カード２０の例としてのMMCカードの二面図を示している。

【 0 0 2 0 】

図２において、一段カード２０は、前記二段カード１０の上側本体部１１とほぼ同じ厚みｔを有するカード本体２１を有している。一段カード２０の左先端部には誤挿入防止のための面取り部２２を有している。一段カード２０の底面の先端側には、複数のコンタクトパッド２３が配されている。

【 0 0 2 1 】

この一段カード２０の平面形状および平面サイズ、コンタクトパッドの配置位置は図１の二段カード１０とほぼ同じである。

【 0 0 2 2 】

[第１実施形態]

つぎに、図３～図１５にしたがってこの発明に係るカードコネクタの第１実施形態について説明する。

【 0 0 2 3 】

図３はカードコネクタ１の外観構成を示す平面図、図４はその一部を断面した部分断面図、図５は二段カード１０が装填された状態を示す正面図である。

【 0 0 2 4 】

このカードコネクタ 1 は、携帯電話機、PDA、携帯型オーディオ、カメラ等の電子機器に配設されるものである。

【 0 0 2 5 】

このカードコネクタ 1 は、樹脂材料などの絶縁体によって成形加工されたコネクタハウジング 2 と、その上部を覆うカバー（この場合は金属製） 3 とによって構成されている。ハウジング 2 は、上板、下板、側面板、後面板を有している。

【 0 0 2 6 】

コネクタハウジング 2 の上板には、二段カード 1 0 および一段カード 2 0 の装填時、弾性変形するコンタクト端子 3 0 の先端を上方に逃がすための逃げ孔 4 が複数個形成されている。金属カバー 3 にも同様の逃げ孔 5 が形成されている。

【 0 0 2 7 】

この場合、片持ち状の接触バネ片で構成された複数のコンタクト端子 3 0 は、コネクタハウジング 2 の上板に固定されている。各コンタクト端子 3 0 は、電子機器のプリント配線基板のコンタクトパッドに半田接続される端子部 3 0 a、コネクタハウジング 2 の上板に固定される固定部（図示せず）、弾性的に変位してカード 1 0 または 2 0 のコンタクトパッドと当接するべく下方に突出した接点部 3 0 b を有している。

【 0 0 2 8 】

コネクタハウジング 2 の前面には、先に示した二種類のカード 1 0、2 0 をコネクタ内に装填するための共用のカードスロット（挿入口） 6 を有している。

【 0 0 2 9 】

この場合、前述したように、コンタクト端子 3 0 は、コネクタハウジング 2 の上板側に設けられており、二段カード 1 0 および一段カード 2 0 は、双方ともコンタクトパッド 1 6、2 3 が形成された面を上にしてコネクタ 1 内に挿入される（図 5 参照）。

【 0 0 3 0 】

スロット 6 に続くハウジング奥方に、二段カード 1 0 及び一段カード 2 0 用のカード収容部 7 が形成されている。

【 0 0 3 1 】

カード収容部 7 には、図 5 に示すように、二段カード 1 0 の上側本体部 1 1 及び一段カード 2 0 を支持しかつそれらの挿脱を案内するガイド溝 8 が左右両側に形成されている。

【 0 0 3 2 】

さらに、カード収容部 7 の上方の両角部には、段部 9 が形成されており、この段部 9 の下面壁 9 a によって二段カード 1 0 および一段カード 2 0 を上方に規制するようにしている。

【 0 0 3 3 】

また、段部 9 の側面壁 9 b によって、二段カード 1 0 の下側本体部 1 3 の側面を案内するようにしている。勿論、二段カード 1 0 は、ガイド溝 8 によって案内されるので、二段カード 1 0 の下側本体部 1 3 が、単に段部 9 間の空間に収容されるように段部 9 の寸法を設定してもよい。

【 0 0 3 4 】

一段カード 2 0 においては、前述したように、接触パッド 2 3 は、カード本体部 2 1 の底面上に位置している。一方、二段カード 1 0 においては、接触パッド 1 6 は、上側本体部 1 1 の底面上に位置している。また、上記コネクタ構造によれば、ガイド溝 8 によって二段カード 1 0 の上側本体部 1 1 または一段カード 2 0 が支持案内される。したがって、このコネクタ構造によれば、いずれのカード 1 0, 2 0 が挿入されたときでも、接触パッド 1 6, 2 3 からコネクタ 1 のコンタクト端子 3 0 までの距離が同じになるので、コンタクト端子はどちらのカード 1 0, 2 0 によっても同じ弾性変位量を与えられることになり、両カード 1 0, 2 0 について安定した接触信頼性を得ることができる。

【 0 0 3 5 】

このカードコネクタ 1 は、装填されているカード 1 0 または 2 0 をハウジング奥側へ若干押すことによって、装填されているカード 1 0 または 2 0 をイジェクトするイジェクト機構 4 0 を有している。

【 0 0 3 6 】

図 4 に示す部分断面図には、イジェクト機構 4 0 のイジェクト部材 4 1 が示されている。このイジェクト部材 4 1 は、カード 1 0 または 2 0 の面取り部 1 2,

2 2 および先端部と当接するカード当接部 4 1 a を有している。

【 0 0 3 7 】

このイジェクト部材 4 1 は、例えば図 6 に分解図として示すようなイジェクト機構 4 0 によってイジェクト動作を実行する。なお、図 6 に示すイジェクト機構は図 4 に示すものと左右が逆である。

【 0 0 3 8 】

このイジェクト機構 4 0 は、コネクタハウジング 2 の下板に形成されたレバー案内溝 4 2、ハートカム 4 3、および案内溝 4 4 などと、イジェクト部材 4 1 と、イジェクト部材 4 1 に支持されてレバー案内溝 4 2 を移動するカムレバー 4 5 と、ハウジング下板およびイジェクト部材 4 1 間に介装されるコイルスプリング 4 6 とを有している。

【 0 0 3 9 】

このイジェクト機構 4 0 では、コネクタ 1 にカードを挿入すると、イジェクト部材 4 1 がカードによって押され、これによりイジェクト部材 4 1 はコネクタ奥側に移動する。この際、カムレバー 4 5 の先端部 4 5 a は、レバー案内溝 4 2 a 側に沿って移動し、その後ハートカム 4 3 の係止部 4 3 a で係止（ロック）される。これにより、カードはコネクタ 1 内で固定され、カード 1 0、2 0 の接触パッド 2 3、1 6 とコネクタ 1 のコンタクト端子 3 0 が当接される。

【 0 0 4 0 】

カードをイジェクトする際は、装填されたカードを奥方に若干押し込む。これにより、ハートカム 4 3 の係止部 4 3 a とカムレバー 4 5 との係合によるロック状態が解かれ、カムレバー 4 5 の先端部 4 5 a は、コイルスプリング 4 6 の復帰力によって、レバー案内溝 4 2 b 側に沿ってコネクタ前方に移動する。したがって、カードは、イジェクト部材 4 1 のカード当接部 4 1 a によって押され、イジェクトされる。

【 0 0 4 1 】

このようにこの場合のイジェクト部材 4 1 は、カードの挿入抜脱の際、カードの移動と同じ動きをする。

【 0 0 4 2 】

次に、この発明の要部であるカードロック機構（カード脱落防止機構）について説明する。

【 0 0 4 3 】

図 3 および図 4 に示すように、イジェクト部材 4 1 には、二段カード 1 0 に形成された切欠き 1 8 に係合して、カード 1 0 の移動をロックするための弾性ロック片 5 0 が固定されている。この弾性ロック片 5 0 の具体的形状は、図 7 および図 8 に示されている。図 7 は図 3 における弾性ロック片 5 0 の配設部位を拡大して示した上面図であり、また図 8 は図 7 の Y - Y 断面図である。

【 0 0 4 4 】

これらの図に示すように、弾性ロック片 5 0 は、金属あるいは樹脂材料などの弾性変形可能な材料で構成されており、イジェクト部材 4 1 に固定される固定部 5 0 a、上方に突出された突起部 5 0 b、二段カード 1 0 の切欠き 1 8 に係合される釣り針状（フック状）の係止部（ロック部） 5 0 c およびバネ片部 5 0 d を有している。

【 0 0 4 5 】

また、イジェクト部材 4 1 には、図 4 および図 8 に示すように、弾性ロック片 5 0 のロック部 5 0 c およびバネ片部 5 0 d を収容する空間 6 2 が形成されている。

【 0 0 4 6 】

弾性ロック片 5 0 は、弾性復帰時に前記係止部 5 0 c がカード 1 0 の切欠き 1 8 に係止されるようカード 1 0 に当接する方向に付勢されている。

【 0 0 4 7 】

金属カバー 3 には、イジェクト部材 4 1 の移動に伴なって移動する弾性ロック片 5 0 の突起部 5 0 b を案内するテーパ状のガイド面（カム面） 6 1 を有するガイド孔 6 0 が形成されている。このガイド孔 6 0 は、二段カード 1 0 の挿脱の際には、ガイド面 6 1 によって弾性ロック片 5 0 のガイド手段として機能し、一段カード 2 0 が挿入されたときは、ロック片 5 0 の突起部 5 0 b を自由に移動させるスペースとして機能する。

【 0 0 4 8 】

上記弾性ロック片 5 0 に形成した突起部 5 0 b およびガイド孔 6 0 のガイド面 6 1 によって構成されるロック片案内手段は、イジェクト部材 4 1 のカード挿脱方向への動きを弾性ロック片 5 0 のロック部 5 0 c のカード接離方向の動きに変換することにより、カード 1 0 の挿入の際にはロック部 5 0 c をカード 1 0 の切欠き 1 8 へ係合させ、カードイジェクトの際にはロック部 5 0 c を切欠き 1 8 から解放するようロック部 5 0 c を案内する。

【 0 0 4 9 】

かかるコネクタ構造において、カードが挿入されていないときには、弾性ロック片 5 0 は、イジェクト部材 4 1 の待機位置に対応して、図 3 または図 7 に示す位置にある。この位置では、金属カバー 3 に形成されたガイド孔 6 0 のガイド面 6 1 によって弾性ロック片 5 0 の突起部 5 0 b が規制されて弾性ロック片 5 0 が外側に弾性変形されることにより、弾性ロック片 5 0 のロック部 5 0 c は、二段カード 1 0 の上側本体部 1 1 の側壁面が位置する面（破線 D）より外側に待機している。

【 0 0 5 0 】

図 9 および図 1 0 は、二段カード 1 0 が完全に挿入されたときの弾性ロック片 5 0 の状態を示すものである。二段カード 1 0 が挿入されると、イジェクト部材 4 1 はカード 1 0 の先端部によって押されてコネクタ 1 の奥側に移動される。これに伴って、弾性ロック片 5 0 もコネクタ 1 の奥側に移動される。この移動の際、弾性ロック片 5 0 の突起部 5 0 b は、弾性ロック片 5 0 の弾性復帰力によってガイド孔 6 0 のガイド面 6 1 に沿って移動するので、弾性ロック片 5 0 のロック部 5 0 c はカード 1 0 の側壁面の方に近づいていき、最終的に弾性ロック片 5 0 のロック部 5 0 c は、図 9 および図 1 0 に示すように、カード 1 0 の切欠き 1 8 内に嵌まり込んで係止されることになる。

【 0 0 5 1 】

この係止状態においては、カード 1 0 の切欠き 1 8 に釣り針状のロック部 5 0 c が嵌まり込んで、ロック部 5 0 c の先端でカード 1 0 の抜脱方向への移動を完全に規制しているので、カード 1 0 が不注意や外力などによって抜け落ちることはない。

【 0 0 5 2 】

図 1 1 および図 1 2 は、二段カード 1 0 がイジェクトされたときの弾性ロック片 5 0 の状態を示すものである。

【 0 0 5 3 】

前述したように、挿入されたカード 1 0 を更に奥方向に押すイジェクト操作が行われると、イジェクト機構 4 0 のロックが外れ、イジェクト部材 4 1 はコイルスプリング 4 6 の復帰力によって、コネクタの前方側に移動する。このイジェクト部材 4 1 の移動によって、カード 1 0 および弾性ロック片 5 0 がコネクタの前方に移動する。この移動の際には、弾性ロック片 5 0 の突起部 5 0 b は、ガイド孔 6 0 のガイド面 6 1 で押されてカード挿入のときと逆方向に移動するので、弾性ロック片 5 0 のロック部 5 0 c はカード 1 0 の側壁面から遠ざかり、最終的に弾性ロック片 5 0 のロック部 5 0 c は、図 1 1 および図 1 2 に示すように、カード 1 0 の側壁に触れない位置で停止する。この結果、カード 1 0 のロックが解除され、カード 1 0 には弾性ロック片 5 0 による何の接圧もかからない状態となり、カード 1 0 の排出が可能になる。

【 0 0 5 4 】

図 1 3 ～図 1 5 は、一段カード 2 0 が挿入されたときの弾性ロック片 5 0 の状態を示すものである。

【 0 0 5 5 】

一段カード 2 0 が挿入されると、イジェクト部材 4 1 はカード 2 0 の先端部によって押されてコネクタ 1 の奥側に移動され、これに伴って、弾性ロック片 5 0 もコネクタ 1 の奥側に移動される。一段カード 2 0 には二段カード 1 0 のように切欠き 1 8 が形成されていないので、上記移動の結果、弾性ロック片 5 0 は、図 1 3 ～図 1 5 に示すように、ロック部 5 0 c の先端部が一段カード 2 0 の側壁に当接する状態に弾性変形する。この弾性ロック片 5 0 の変位によって、突起部 5 0 b は、図 1 5 に示すように、カード 2 0 の側壁から離れた部位に位置するが、ガイド孔 6 0 はこの突起部 5 0 b の変位に対して干渉しないようにその孔形状および孔サイズを設定している。

【 0 0 5 6 】

したがって、このコネクタ 1 によれば、切欠き 1 8 が形成されていない一段カード 2 0 も受け入れることができる。そして、一段カード 2 0 が挿入されたときには、弾性ロック片 5 0 は、カードの移動をロックする部材としてではなく、カードにブレーキ力のための接圧を付与するブレーキ片として機能する。

【 0 0 5 7 】

一段カード 2 0 がイジェクトされる際には、弾性ロック片 5 0 は、最初弾性ロック片 5 0 のロック部 5 0 c の先端部が一段カード 2 0 の側壁に当接した状態でコネクタの前方に移動し、その後弾性ロック片 5 0 の突起部 5 0 b がガイド孔 6 0 のガイド面 6 1 に当接した後は、突起部 5 0 b がガイド面に 6 1 に沿って移動する。この結果、弾性ロック片 5 0 は、図 7 に示した元の待機位置に復帰することになる。

【 0 0 5 8 】

このようにこの第 1 実施形態によれば、一段カード 2 0 および二段カード 1 0 の二種類のカードを装填可能なカードコネクタにおいて、二段カード 1 0 に切欠き 1 8 を形成するとともに、カードの挿脱に伴ないカードと同様にスライドするイジェクト部材 4 1 に弾性ロック片 5 0 を取り付け、カード挿脱の際、この弾性ロック片 5 0 の突起部 5 0 b を金属カバー 3 に形成したガイド孔 6 0 のガイド面 6 1 で案内することにより、弾性ロック片 5 0 のロック部 5 0 c を二段カード 1 0 の切欠き 1 8 に対し係止／解放させるようにしたので、弾性ロック片 5 0 のロック部 5 0 c に上記釣り針形状のようなカード抜脱方向への移動を完全に規制することができるロック構造を採用することができる。したがって、カード 1 0 が不注意や予期せぬ外力などによって抜け落ちることはなく、カード装填中、カードを確実に保持することができる。

【 0 0 5 9 】

さらに、この第 1 実施形態によれば、一段カード 2 0 が装填された際は、弾性ロック片 5 0 は、カード 2 0 に接圧を与えるブレーキ片として機能するので、一段カード 2 0 の抜け落ちもある程度防止することができる。

【 0 0 6 0 】

このようにこの第 1 の実施形態では、コネクタハウジング側にテーパ面壁 6 1

を設け、このテーパ面壁 6 1 によって該テーパ面壁 6 1 に一部が当接した弾性ロック片 5 0 をカード接離方向に変位させている。

【 0 0 6 1 】

なお、上記実施形態では、弾性ロック片 5 0 の突起部 5 0 b を上方に突出させ、ガイド面 6 1 を有するガイド孔 6 0 をハウジングの上側に位置する金属カバー 3 にもうけるようにしたが、突起部 5 0 b を下側に突出させ、上記ガイド孔 6 0 をコネクタハウジングの下板側に設けるようにしてもよい。

【 0 0 6 2 】

[第 2 実施形態]

図 1 6 ～図 1 9 にしたがってこの発明に係るカードコネクタの第 2 実施形態について説明する。

【 0 0 6 3 】

図 1 6 は第 2 実施形態のカードコネクタの外観を示す斜視図、図 1 7 はカード未挿入時またはカードイジェクト時のカードロック機構（カードは省略）を示す斜視図、図 1 8 は図 1 7 と同じ状態をコネクタ裏面から見た斜視図、図 1 9 はカード装填時のカードロック機構（カードは省略）を示す斜視図である。

【 0 0 6 4 】

これらの図に示すように、第 2 実施形態においては、複数のコンタクト端子 3 0 は、コネクタハウジングの 2 の下面側で固定されて上方に突出する折り返し型のものを用いている。

【 0 0 6 5 】

また、先の第 1 の実施形態においては、弾性ロック片 5 0 はカードの側面に対し接離するように弾性移動させたが、この第 2 の実施形態においては、弾性ロック片 7 0 はカードの底面（この場合コンタクトパッド面）に対し接離するように上下に弾性移動する。弾性ロック片 7 0 は、第 1 の実施形態と同様、イジェクト部材 4 1 に固定され、イジェクト部材 4 1 と一体的に移動する。弾性ロック片 7 0 は、側方に突出された突起部 7 0 b、二段カード 1 0 の切欠き 1 8 に係合される釣り針状の係止部（ロック部） 7 0 c およびバネ片部 7 0 d を有している。

【 0 0 6 6 】

この第2の実施形態では、第1の実施形態のガイド孔60のガイド面61の代わりに、コネクタハウジング2にテーパ形状のガイド面（カム面）81を有するガイドブロック80を形成し、このガイド面81によって弾性ロック片70の突起部70bを、イジェクト部材41の移動に伴って上下方向に案内するようにしている。

【0067】

かかるコネクタ構造において、カードが挿入されていないときまたはイジェクト時には、弾性ロック片70は、イジェクト部材41の待機位置に対応して、図17または図18に示す位置にある。この位置では、ガイドブロック80の幅厚部82に突起部50bが当接しているので、弾性ロック片50のロック部50cは、二段カード10の底面（コンタクトパッド面）より外側に待機しており、カードの挿入に対し負荷を発生させない。

【0068】

一方、二段カード10が挿入されると、図19に示すように、イジェクト部材41はカード10によって押されてコネクタ1の奥側に移動される。これに伴って、弾性ロック片70もコネクタ1の奥側に移動される。この移動の際、弾性ロック片70の突起部70bは、弾性ロック片70の弾性復帰力によってガイドブロック80のガイド面81に沿って移動し、最終的には、図19に示すように、ガイド面81の規制から外れる。したがって、弾性ロック片70は、最終的にはフリーの状態になる。

【0069】

よって、弾性ロック片70のロック部70cもカード10の底面の方に近づいていき、最終的に弾性ロック片70のロック部70cは、カード10の切欠き18内に下側から嵌まり込んで係止されることになる。

【0070】

この第2の実施形態においても、一段カード20が装填される際には、弾性ロック片70は先の第1の実施形態と同様、ロック片ではなく、ブレーキ片として機能する。

【0071】

このようにこの第2実施形態においても、二段カードを確実に係止することができ、不注意や予期せぬ外力などによってカードが抜け落ちることがなくなる。

【0072】

このようにこの第2の実施形態でも、第1の実施形態と同様、コネクタハウジング側にテーパ面壁81を設け、このテーパ面壁81によって該テーパ面壁81に一部が当接した弾性ロック片70をカード接離方向に変位させている。

【0073】

なお、この第2の実施形態では、弾性ロック片70のロック部70cはカード10の底面側からカード10の切欠き18に嵌まり込むように構成したが、弾性ロック片70のロック部70cをカード10の上面側から切欠き18に嵌まり込むように構成してもよい。

【0074】

[第3実施形態]

図20～図29にしたがってこの発明に係るカードコネクタの第3実施形態について説明する。

【0075】

図20は第3実施形態のカードコネクタの外観を示す斜視図、図21は金属カバー3を取り去ったときのカードロック状態を示す図、図22はカードロック状態におけるカードロック部分の拡大図、図23はイジェクト部材41に圧入固定された弾性ロック片を示す図、図24はカードロック状態における金属カバー3および弾性ロック片を裏面側から見た図、図25は図24の要部拡大図、図26は金属カバー3を取り去ったときのロック解除状態を示す図、図27はロック解除状態におけるカードロック部分の拡大図、図28はロック解除状態における金属カバー3および弾性ロック片を裏面側から見た図、図29は図28の要部拡大図である。

【0076】

これらの図に示すように、第3実施形態においては、先の第1の実施形態と同様、弾性ロック片90はカードの側面に対し接離するように弾性移動させる。

【0077】

弾性ロック片 9 0 は、先の実施形態と同様、イジェクト部材 4 1 に圧入固定され（図 2 3 参照）、イジェクト部材 4 1 と一体的に移動する。また、イジェクト部材 4 1 は、先の図 6 に示したハートカム 4 3、カムレバー 4 5、コイルスプリング 4 6 などを含むイジェクト機構 4 0 によって、前記と同様に動作する。

【 0 0 7 8 】

弾性ロック片 9 0 は、図 2 3 などに示すように、イジェクト部材 4 1 に固定される固定部 9 0 a、バネ片部 9 0 b、二段カード 1 0 の切欠き 1 8 に係合されるよう側方に突出されたフック状の係止部（ロック部） 9 0 c、および側方に屈曲された先端部 9 0 d を備えている。弾性ロック片 9 0 の先端部 9 0 d は、金属カバー 3 の裏面から突出されたガイド片 9 5 との摺接が確実に行われるように、屈曲されており、また同様の理由でその先端には先細のテーパ面 9 0 e が形成されている。

【 0 0 7 9 】

この第 3 の実施形態では、第 1 の実施形態のガイド孔 6 0 のガイド面 6 1、あるいは第 2 の実施形態のガイドブロック 8 0 の代わりに、図 2 4 あるいは図 2 8 に示すように、金属カバー 3 の裏面からガイド片 9 5（案内用突起）を突出させている。この場合、ガイド片 9 5 は、金属カバー 3 の一部を L 字状に曲げ加工することで形成されている。

【 0 0 8 0 】

そして、イジェクト部材 4 1 の移動に伴って弾性ロック片 9 0 の先端屈曲部 9 0 d などをガイド片 9 5 に摺接させることで、弾性ロック片 9 0 をカード側面から離間される方向に弾性変位させ、これにより弾性ロック片 9 0 の係止部 9 0 c を二段カード 1 0 の切欠き 1 8 に対し係止／解放させるようにしている。

【 0 0 8 1 】

かかるコネクタ構造において、カードが挿入されていないときまたはイジェクト時には、図 2 6 ～図 2 9 に示すように、弾性ロック片 9 0 は、ガイド片 9 5 に当接されることで弾性変位している。この状態のときには、弾性ロック片 9 0 のロック部 9 0 c は、二段カード 1 0 の底面（コンタクトパッド面）より外側の位置で待機しており、カードの挿入に対し負荷を発生させない。

【 0 0 8 2 】

一方、二段カード 1 0 が挿入されたときには、図 2 1、図 2 2、図 2 4 および図 2 5 に示すように、イジェクト部材 4 1 はカード 1 0 によって押されてコネクタ 1 の奥側に移動される。これに伴って、弾性ロック片 9 0 もコネクタ 1 の奥側に移動される。この移動によって、弾性ロック片 9 0 はフリーの状態になるので、弾性ロック片 9 0 の係止部 9 0 c はバネ片部 9 0 b の弾性復帰力によってカード 1 0 の方に移動し、カード 1 0 の切欠き 1 8 内に嵌まり込んで係止される。

【 0 0 8 3 】

このようにこの第 3 の実施形態では、ガイド片 9 5 に対する弾性ロック片 9 0 の当接の有無によって弾性ロック片 9 0 の係止部 9 0 c をカード 1 0 の切欠き 1 8 に対し接離させている。

【 0 0 8 4 】

この第 3 の実施形態においても、弾性ロック片 9 0 はカード側面に接近する方向に付勢されているので、一段カード 2 0 が装填される際には、弾性ロック片 9 0 は先の実施形態と同様、ロック片ではなく、ブレーキ片として機能する。

【 0 0 8 5 】

このようにこの第 3 実施形態においても、二段カードを確実に係止することができ、不注意や予期せぬ外力などによってカードが抜け落ちることがなくなる。

【 0 0 8 6 】

このようにこの第 3 の実施形態では、弾性ロック片 9 0 側に、ガイド片 9 5 に対し弾性ロック片 9 0 を接離させるための構成、すなわち先端屈曲部 9 0 d を設けるようにしている。

【 0 0 8 7 】

なお、この第 3 の実施形態において、弾性ロック片 9 0 を、先の第 2 の実施形態と同様、上下に変位させるようにしてもよい。この場合、弾性ロック片 9 0 の先端屈曲部 9 0 d は上下方向に屈曲させ、ガイド片 9 5 は弾性ロック片 9 0 を上下方向に変位させるように金属カバー 3 から突出形成すれば良い。

【 0 0 8 8 】

[第 4 実施形態]

図 3 0 ～ 図 3 9 にしたがってこの発明に係るカードコネクタの第 4 実施形態について説明する。

【 0 0 8 9 】

図 3 0 は第 4 実施形態のカードコネクタの外観を示す斜視図、図 3 1 は金属カバー 3 を取り去ったときのカードロック状態を示す図、図 3 2 はカードロック状態におけるカードロック部分の拡大図、図 3 3 はイジェクト部材 4 1 に圧入固定された弾性ロック片を示す図、図 3 4 はカードロック状態における金属カバー 3 および弾性ロック片を裏面側から見た図、図 3 5 は図 3 4 の要部拡大図、図 3 6 は金属カバー 3 を取り去ったときのロック解除状態を示す図、図 3 7 はロック解除状態におけるカードロック部分の拡大図、図 3 8 はロック解除状態における金属カバー 3 および弾性ロック片を裏面側から見た図、図 3 9 は図 3 8 の要部拡大図である。

【 0 0 9 0 】

これらの図に示すように、第 4 実施形態においては、弾性ロック片 1 0 0 は、先の第 1 または第 3 の実施形態と同様、カードの側面に対し接離するように弾性移動させる。

【 0 0 9 1 】

弾性ロック片 1 0 0 は、先の実施形態と同様、イジェクト部材 4 1 に圧入固定され（図 3 3 参照）、イジェクト部材 4 1 と一体的に移動する。また、イジェクト部材 4 1 は、先の図 6 に示したハートカム 4 3、カムレバー 4 5、コイルスプリング 4 6 などを含むイジェクト機構 4 0 によって、前記と同様に動作する。

【 0 0 9 2 】

弾性ロック片 1 0 0 は、図 3 3 などに示すように、イジェクト部材 4 1 に固定される固定部 1 0 0 a、バネ片部 1 0 0 b、二段カード 1 0 の切欠き 1 8 に係合されるよう側方に突出された係止部（ロック部） 1 0 0 c、およびバネ片部 1 0 0 b と係止部 1 0 0 c との間で側方に突出された突起部 1 0 0 d を備えている。突起部 1 0 0 d は、金属カバー 3 の裏面から突出されたガイド片 9 5 に当接されることで、弾性ロック片 1 0 0 の係止部（ロック部） 1 0 0 c をカード側面から離間される方向に弾性変位させ、これにより弾性ロック片 1 0 0 の係止部 1 0 0

cを二段カード10の切欠き18に対し解放させるようにしている。

【0093】

また、この第4の実施形態では、図34あるいは図38などに示すように、先の第3の実施形態と同様のガイド片95を金属カバー3の裏面から突出させている。

【0094】

かかるコネクタ構造において、カードが挿入されていないときまたはイジェクト時には、弾性ロック片100の突起部100dは、イジェクト部材41の位置に対応して、図38および図39に示すように、ガイド片95に当接されており、弾性ロック片100のバネ片部100bは弾性変位している。この状態のときには、弾性ロック片100のロック部100cは、二段カード10の底面（コンタクトパッド面）より外側の位置で待機しており、カードの挿入に対し負荷を発生させない。

【0095】

一方、二段カード10が挿入されたときには、図31、図32、図34および図35に示すように、イジェクト部材41はカード10によって押されてコネクタ1の奥側に移動される。これに伴って、弾性ロック片100もコネクタ1の奥側に移動される。この移動によって、図34および図35に示すように、弾性ロック片100のうちの突起部100dより先端側の平坦部100eがガイド片95に当たることになるので、弾性ロック片100は弾性変形から復帰されてほぼフリーの状態となる。したがって、弾性ロック片100の係止部100cは、カード10の切欠き18内に嵌まり込んで係止される。

【0096】

このようにこの第4の実施形態では、ガイド片95に対する弾性ロック片100の突起部100dの当接の有無によって弾性ロック片100の係止部100cをカード10の切欠き18に対し接離させている。

【0097】

この第4の実施形態においても、一段カード20が装填される際には、弾性ロック片90は先の実施形態と同様、ロック片ではなく、ブレーキ片として機能す

る。

【0098】

このようにこの第4実施形態においても、二段カードを確実に係止することができ、不注意や予期せぬ外力などによってカードが抜け落ちることがなくなる。

【0099】

このようにこの第4の実施形態では、弾性ロック片100側に、ガイド片95に対し弾性ロック片100を接離させるための構成、すなわち突起部100dを設けるようにしている。

【0100】

なお、この第4の実施形態において、弾性ロック片100を、先の第2の実施形態と同様、上下に変位させるようにしてもよい。この場合、弾性ロック片100の突起部100dは上下方向に突出させ、ガイド片95は、上下方向に突出された突起部100dと当接して弾性ロック片90を上下方向に変位させるように金属カバー3から突出形成すれば良い。

【0101】

[変形態様]

なお、本発明は、一段カード20に、二段カード10のような切欠きを設け、一段カードも弾性ロック片によってロックするようにしてもよい。

【0102】

また、上記図6に示したイジェクト機構は一例に示したに過ぎず、他の任意の構造のイジェクト機構を採用するようにしてもよい。また、イジェクト操作をイジェクトボタンによって行うものにも本発明は適用可能である。

【0103】

また、弾性ロック片の係止部をカードに対し接離するための構成は、上記各実施形態に示したものに限らず、他の任意の構成を採用してもよい。要は、カードイジェクトの際には弾性ロック片の係止部がカードの切欠きから離間されるよう弾性ロック片を案内して弾性変形させ、カード挿入の際には弾性ロック片を前記弾性変形から復帰させて弾性ロック片の係止部をカード切欠きへ係合させるものであればよい。

【 0 1 0 4 】

さらに、上記実施形態では、二段カード 1 0 として S D カードを例にとり、一段カード 2 0 として MMC カードを例にとったが、本発明を他の任意の種類のカードに適用するようにしてもよい。

【 0 1 0 5 】

また、本発明を適用するコネクタハウジングの形状、材質などは他の任意の形態を採用するようにしてもよい。

【 0 1 0 6 】

【発明の効果】

以上説明したようにこの発明によれば、カード自体の動きによってではなく、カードと同様の動きをするイジェクト部材の動きに基づいて弾性ロック片の係止部をカード接離方向に強制的に動かすようにしているので、弾性ロック片の係止部に例えば釣り針形状のようなカード抜脱方向への移動を完全に規制することができるロック構造を採用することができるようになり、これによりこの発明では、カードが不注意や予期せぬ外力、衝撃などによって抜け落ちることがなくなり、カード装填中、カードを常に確実に保持することができる。

【 0 1 0 7 】

また、この発明のカードコネクタにおいて、切欠きが形成されていないカードが挿入された場合、前記弾性ロック片の係止部は、この切欠きが形成されていないカードの壁面を押圧することによってカード脱落方向へのブレーキ力を作用させるブレーキ片として機能するので、切欠けが形成されているカードと切欠けが形成されていない 2 種類のカードを 1 つのコネクタで兼用することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

二段カードの一例を示す三面図である。

【図 2】

一段カードの一例を示す二面図である。

【図 3】

この発明に係るカードコネクタの第 1 実施形態を示す平面図である。

【図 4】

この発明に係るカードコネクタの第 1 実施形態を示す一部断面図である。

【図 5】

この発明に係るカードコネクタの第 1 実施形態を示す正面図である。

【図 6】

イジェクト機構の一例を示す図である。

【図 7】

図 3 の平面図の一部拡大図である。

【図 8】

図 7 の Y - Y 断面図である。

【図 9】

第 1 の実施形態における二段カード装填時のカードコネクタの状態を示す一部断面図である。

【図 1 0】

第 1 の実施形態における二段カード装填時のカードコネクタの状態を示す一部拡大平面図である。

【図 1 1】

第 1 の実施形態における二段カードのイジェクト時のカードコネクタの状態を示す一部断面図である。

【図 1 2】

第 1 の実施形態における二段カードのイジェクト時のカードコネクタの状態を示す一部拡大平面図である。

【図 1 3】

第 1 の実施形態における一段カード装填時のカードコネクタの状態を示す平面図である。

【図 1 4】

第 1 の実施形態における一段カード装填時のカードコネクタの状態を示す一部断面図である。

【図 1 5】

図 1 3 の一部拡大図である。

【図 1 6】

この発明に係るカードコネクタの第 2 実施形態の概観を示す斜視図である。

【図 1 7】

第 2 の実施形態のカード未挿入時またはカードイジェクト時のカードロック機構を例示する斜視図である。

【図 1 8】

図 1 7 と同じ状態をコネクタ裏面から見た斜視図である。

【図 1 9】

第 2 の実施形態のカード装填時のカードロック機構を示す斜視図である。

【図 2 0】

第 3 実施形態のカードコネクタの外観を示す斜視図である。

【図 2 1】

第 3 実施形態において、金属カバーを取り去ったときのカードロック状態を示す斜視図である。

【図 2 2】

第 3 実施形態において、カードロック状態でのカードロック部分を拡大して示す斜視図である。

【図 2 3】

第 3 実施形態において、イジェクト部材に固定された弾性ロック片を示す斜視図である。

【図 2 4】

第 3 実施形態において、カードロック状態における金属カバーおよび弾性ロック片を裏面側から見た斜視図である。

【図 2 5】

図 2 4 の要部を拡大して示す斜視図である。

【図 2 6】

第 3 実施形態において、金属カバーを取り去ったときのロック解除状態を示す斜視図である。

【図 2 7】

第 3 実施形態において、ロック解除状態でのカードロック部分を拡大して示す斜視図である。

【図 2 8】

第 3 実施形態において、ロック解除状態における金属カバーおよび弾性ロック片を裏面側から見た斜視図である。

【図 2 9】

図 2 8 の要部を拡大して示す斜視図である。

【図 3 0】

第 4 実施形態のカードコネクタの外観を示す斜視図である。

【図 3 1】

第 4 実施形態において、金属カバーを取り去ったときのカードロック状態を示す斜視図である。

【図 3 2】

第 4 実施形態において、カードロック状態でのカードロック部分を拡大して示す斜視図である。

【図 3 3】

第 4 実施形態において、イジェクト部材に固定された弾性ロック片を示す斜視図である。

【図 3 4】

第 4 実施形態において、カードロック状態における金属カバーおよび弾性ロック片を裏面側から見た斜視図である。

【図 3 5】

図 3 4 の要部を拡大して示す斜視図である。

【図 3 6】

第 4 実施形態において、金属カバーを取り去ったときのロック解除状態を示す斜視図である。

【図 3 7】

第 4 実施形態において、ロック解除状態でのカードロック部分を拡大して示す



斜視図である。

【図 3 8】

第 4 実施形態において、ロック解除状態における金属カバーおよび弾性ロック片を裏面側から見た斜視図である。

【図 3 9】

図 3 8 の要部を拡大して示す斜視図である。

【符号の説明】

- 1 カードコネクタ
- 2 コネクタハウジング
- 3 金属カバー
- 4 逃げ孔
- 5 逃げ孔
- 6 カードスロット
- 7 カード収容部
- 8 ガイド溝
- 9 段部
- 10 二段カード
- 11 上側本体部
- 12 面取り部
- 13 下側本体部
- 14 段差部
- 15 凹部
- 16 接触パッド
- 17 ライトプロテクトスイッチ
- 18 切欠き
- 20 一段カード
- 21 カード本体
- 23 接触パッド
- 30 コンタクト端子

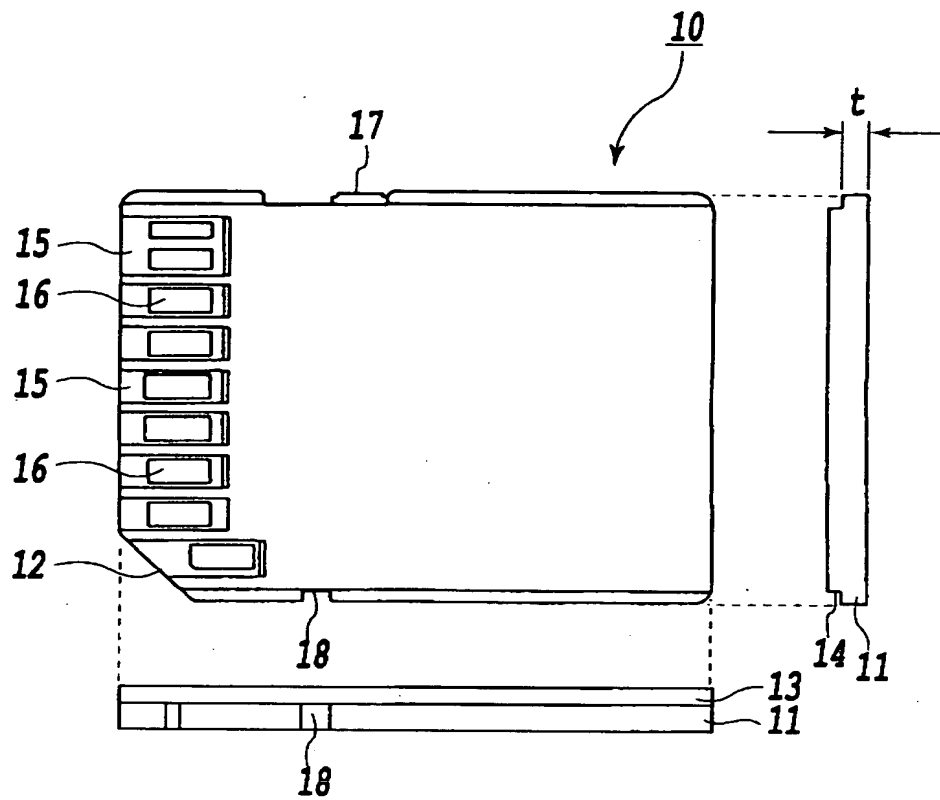
- 4 0 イジェクト機構
- 4 1 イジェクト部材
- 4 1 a カード当接部
- 4 2 レバー案内溝
- 4 3 ハートカム
- 4 4 案内溝
- 4 5 カムレバー
- 4 6 コイルスプリング
- 5 0 弾性ロック片
- 5 0 a 固定部
- 5 0 b 突起部
- 5 0 c 係止部 (ロック部)
- 5 0 d バネ片部
- 6 0 ガイド孔
- 6 1 ガイド面
- 6 2 空間
- 7 0 弾性ロック片
- 7 0 b 突起部
- 7 0 c 係止部
- 7 0 d バネ片部
- 8 0 ガイドブロック
- 8 1 ガイド面
- 9 0 弾性ロック片
- 9 0 a 固定部
- 9 0 b バネ片部
- 9 0 c 係止部 (ロック部)
- 9 0 d 先端屈曲部
- 9 5 ガイド片 (案内用突起)
- 1 0 0 弾性ロック片

- 1 0 0 a 固定部
- 1 0 0 b バネ片部
- 1 0 0 c 係止部（ロック部）
- 1 0 0 d 突起部
- 1 0 0 e 先端平坦部

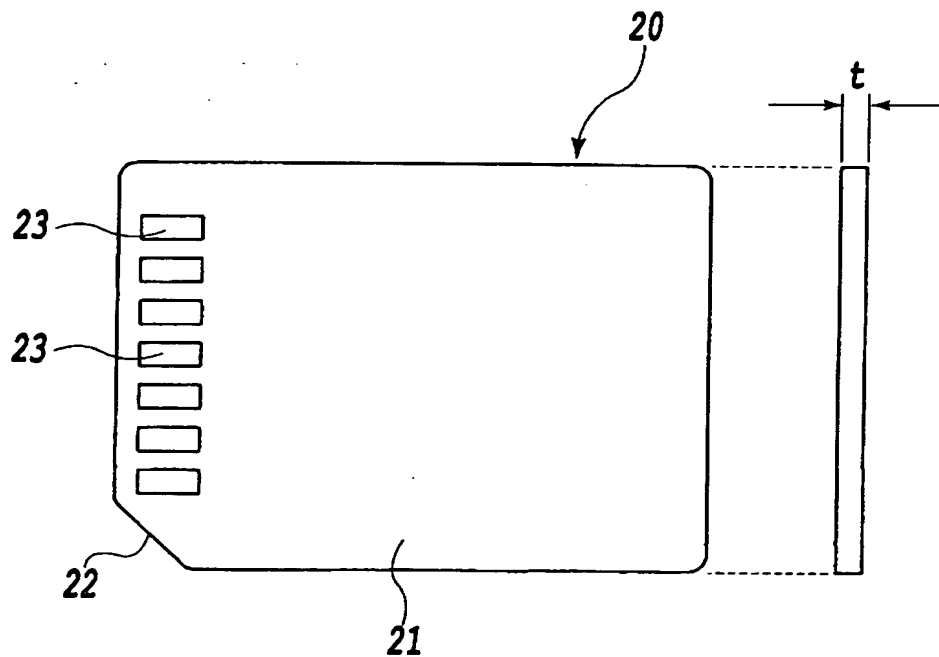
【書類名】

図面

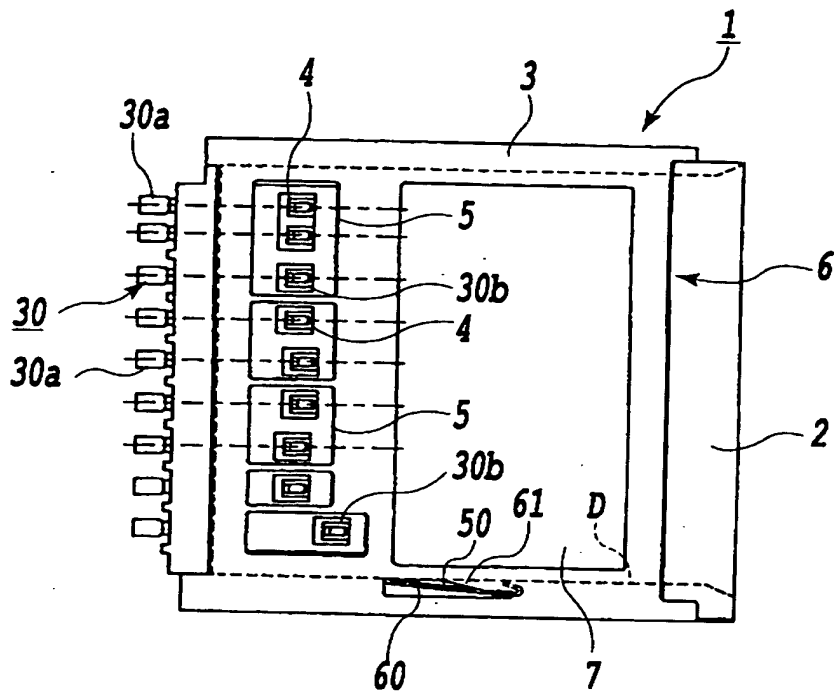
【図 1】



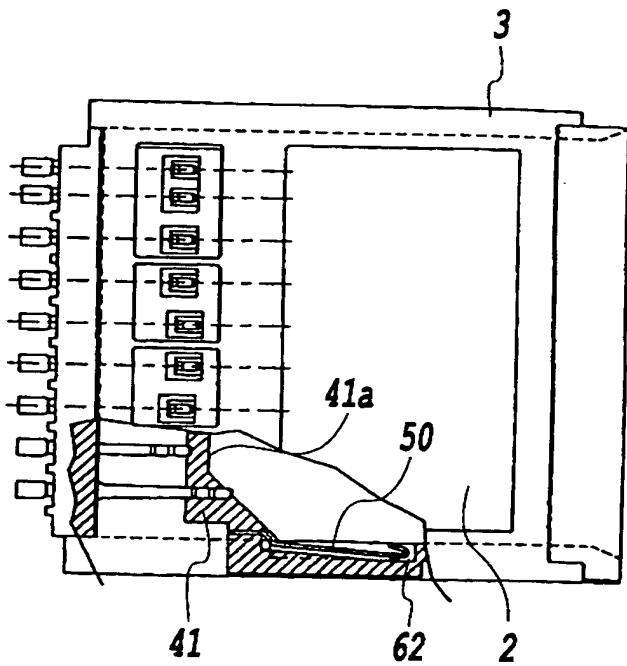
【図 2】



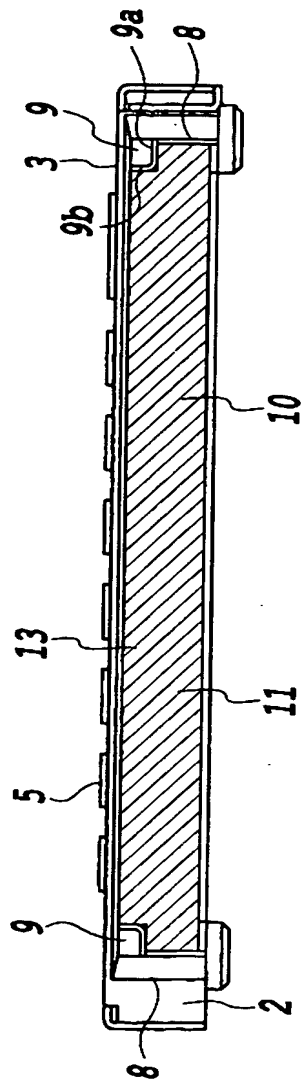
【図 3】



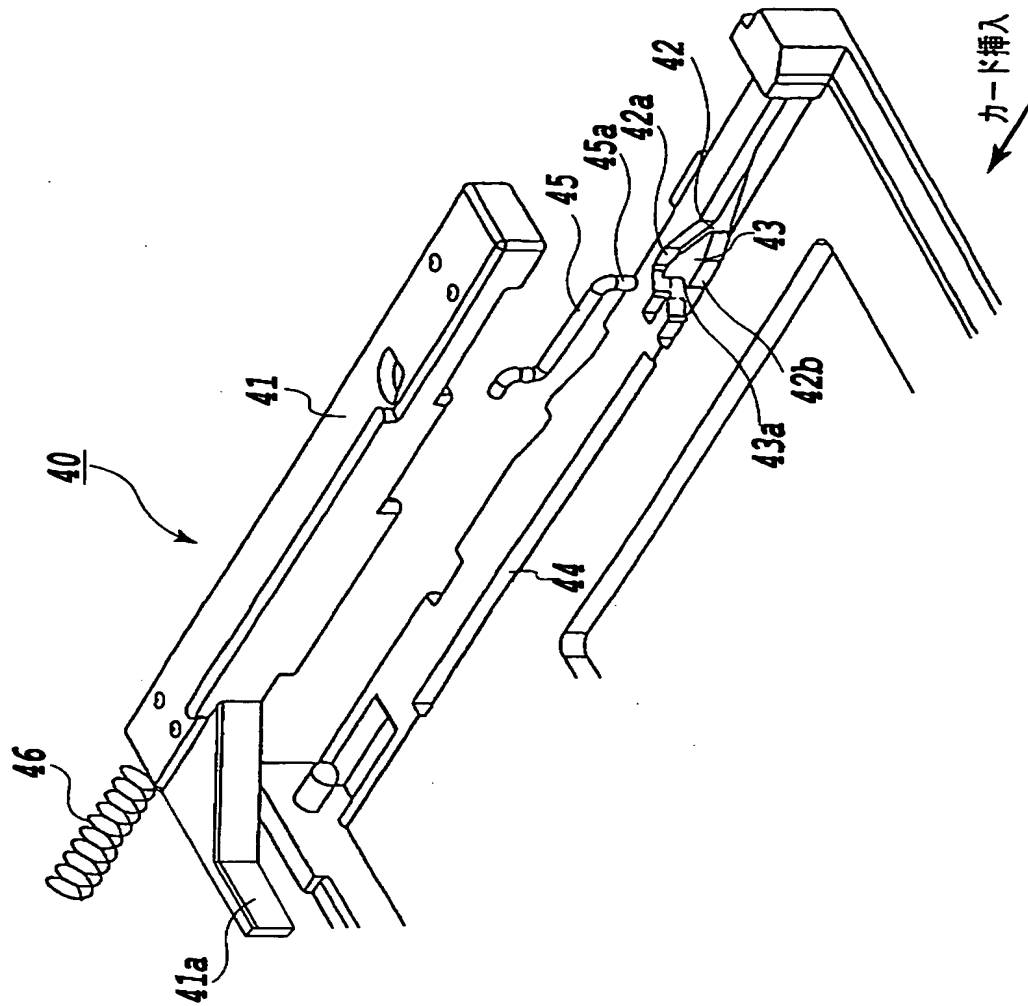
【図 4】



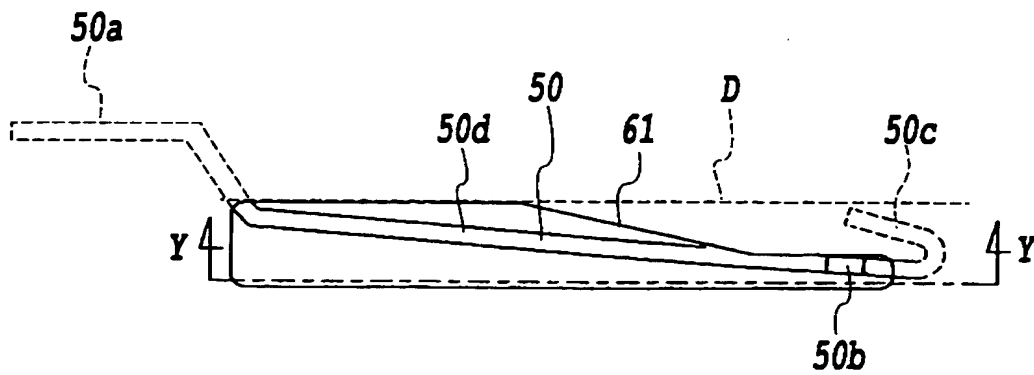
【図 5】



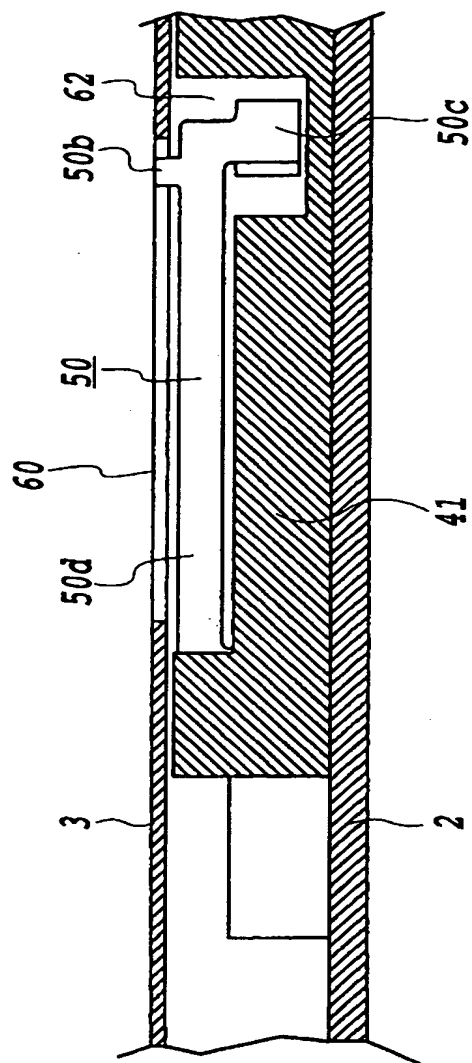
【図 6】



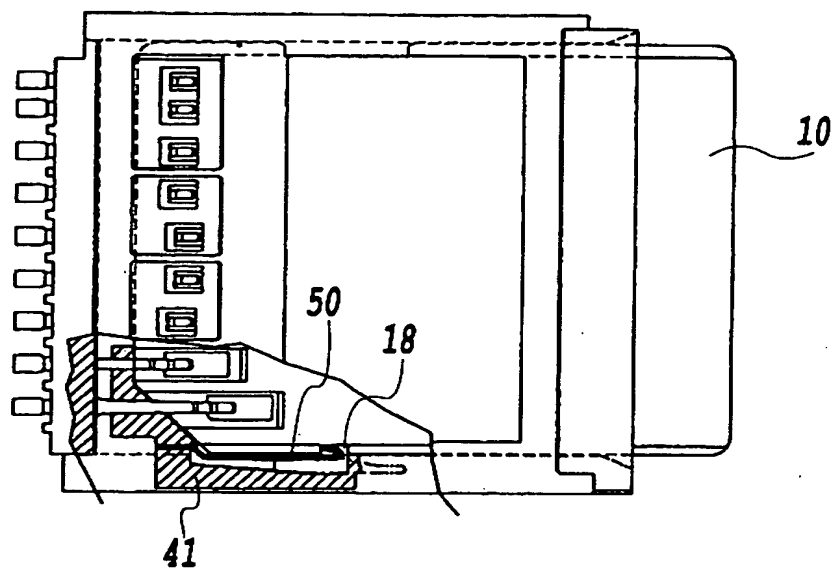
【図 7】



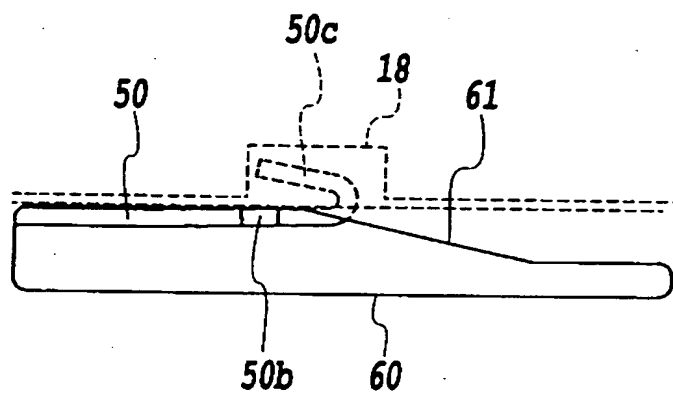
【図 8】



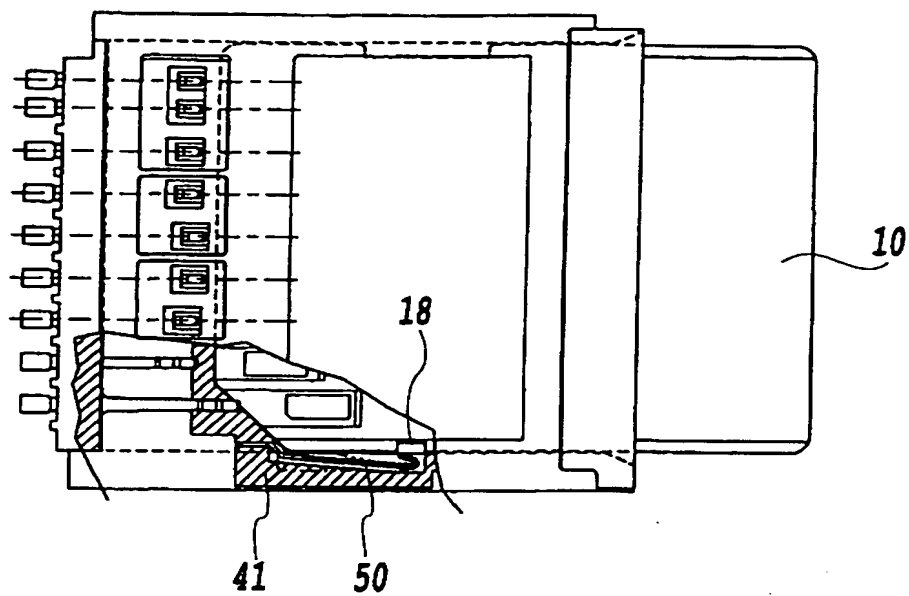
【図9】



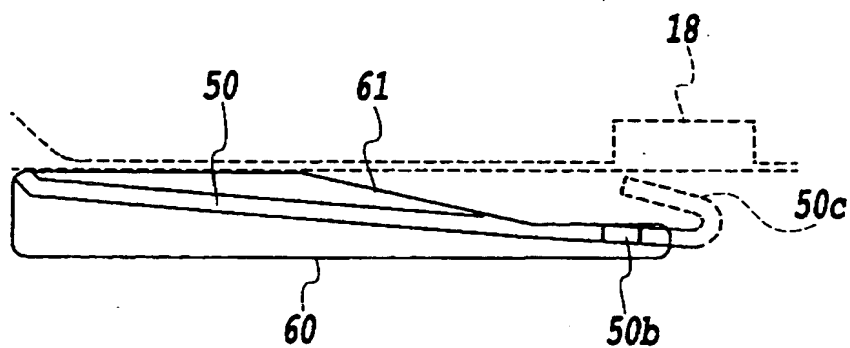
【図10】



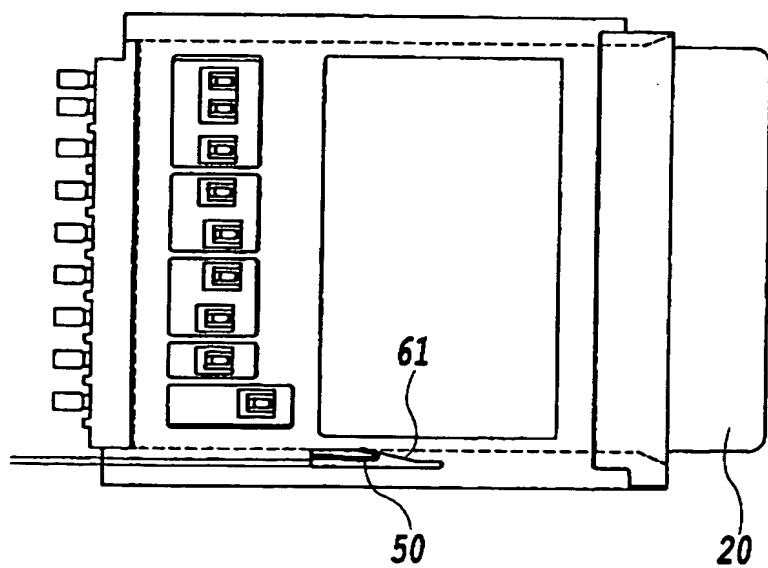
【図 1 1】



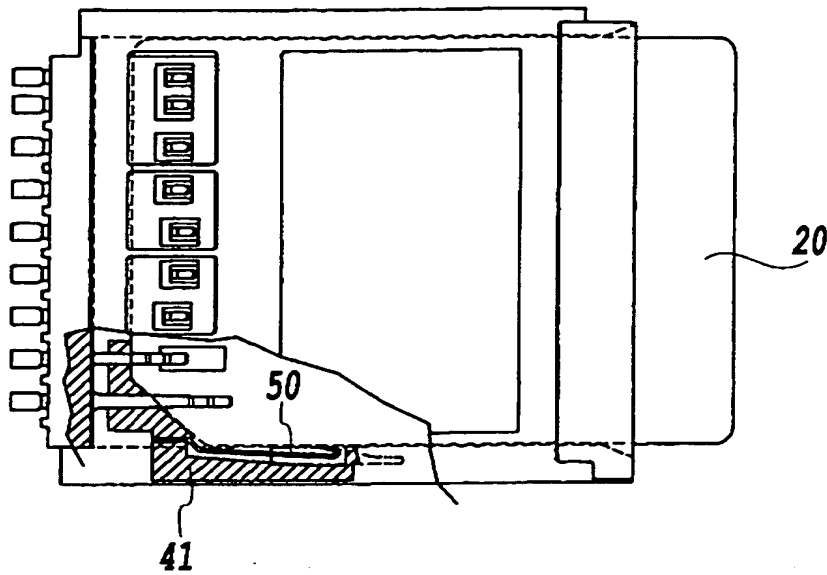
【図 1 2】



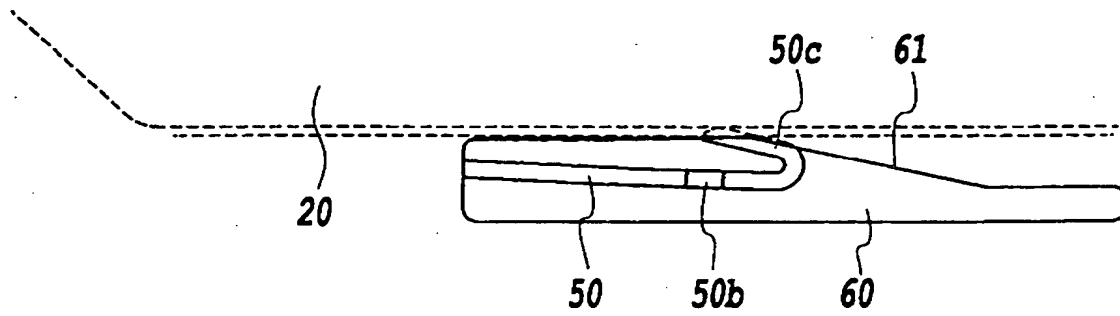
【図 1 3】



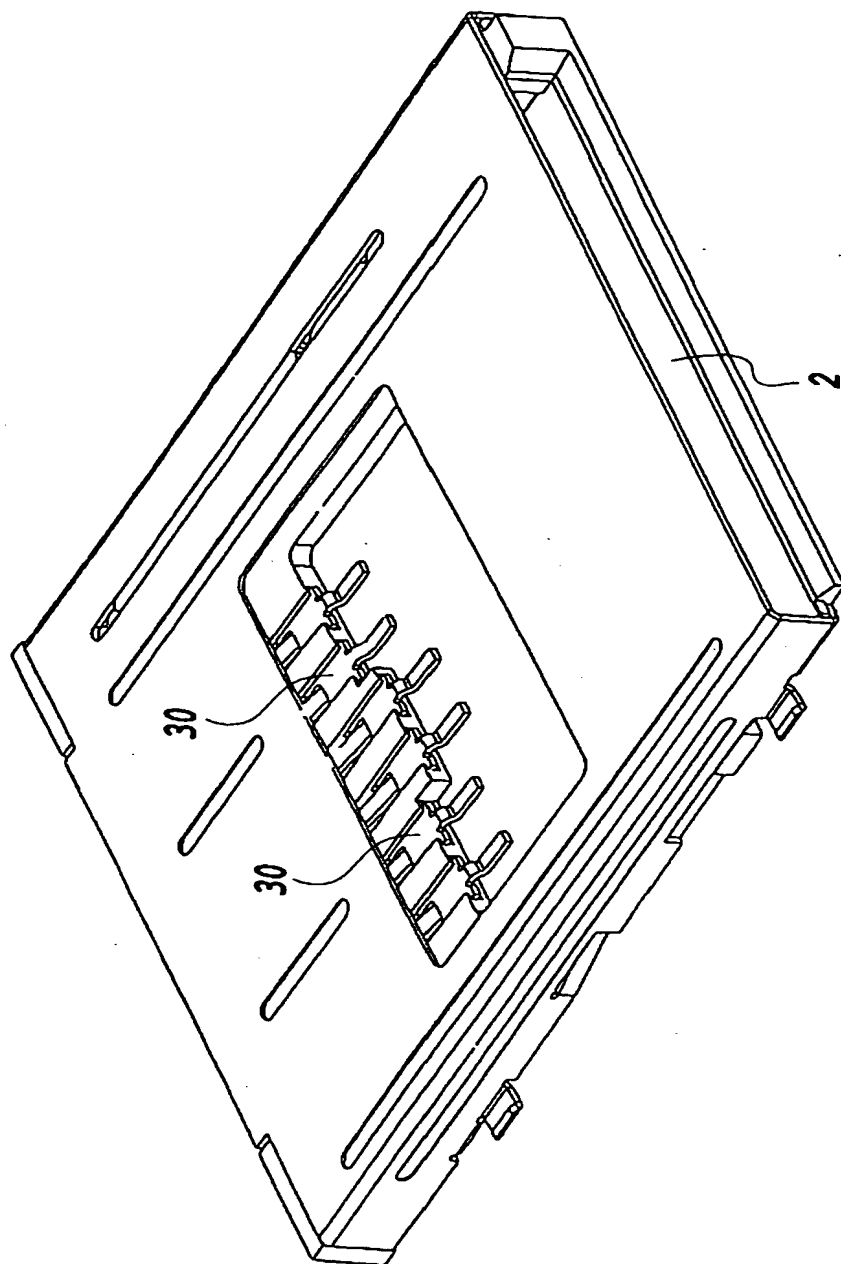
【図 1 4】



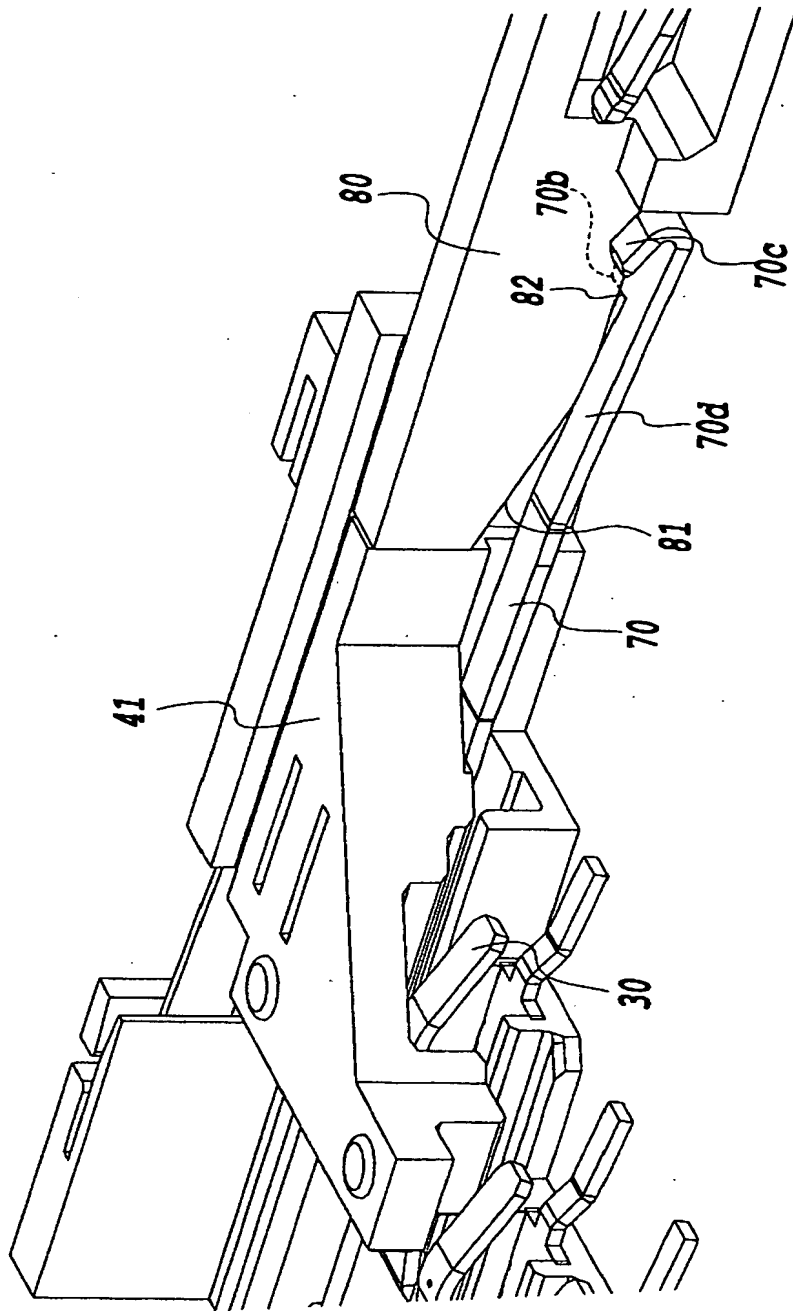
【図 1 5】



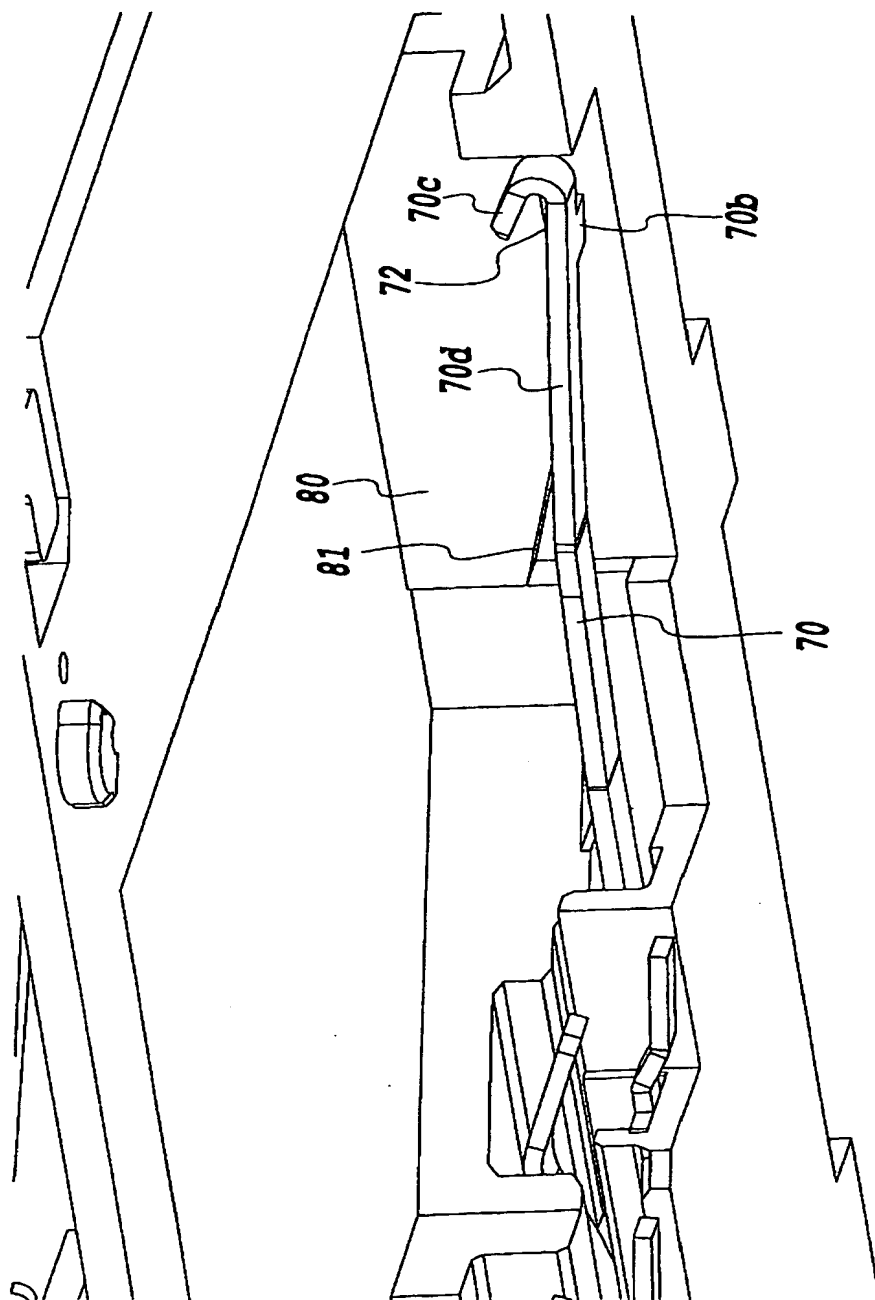
【図16】



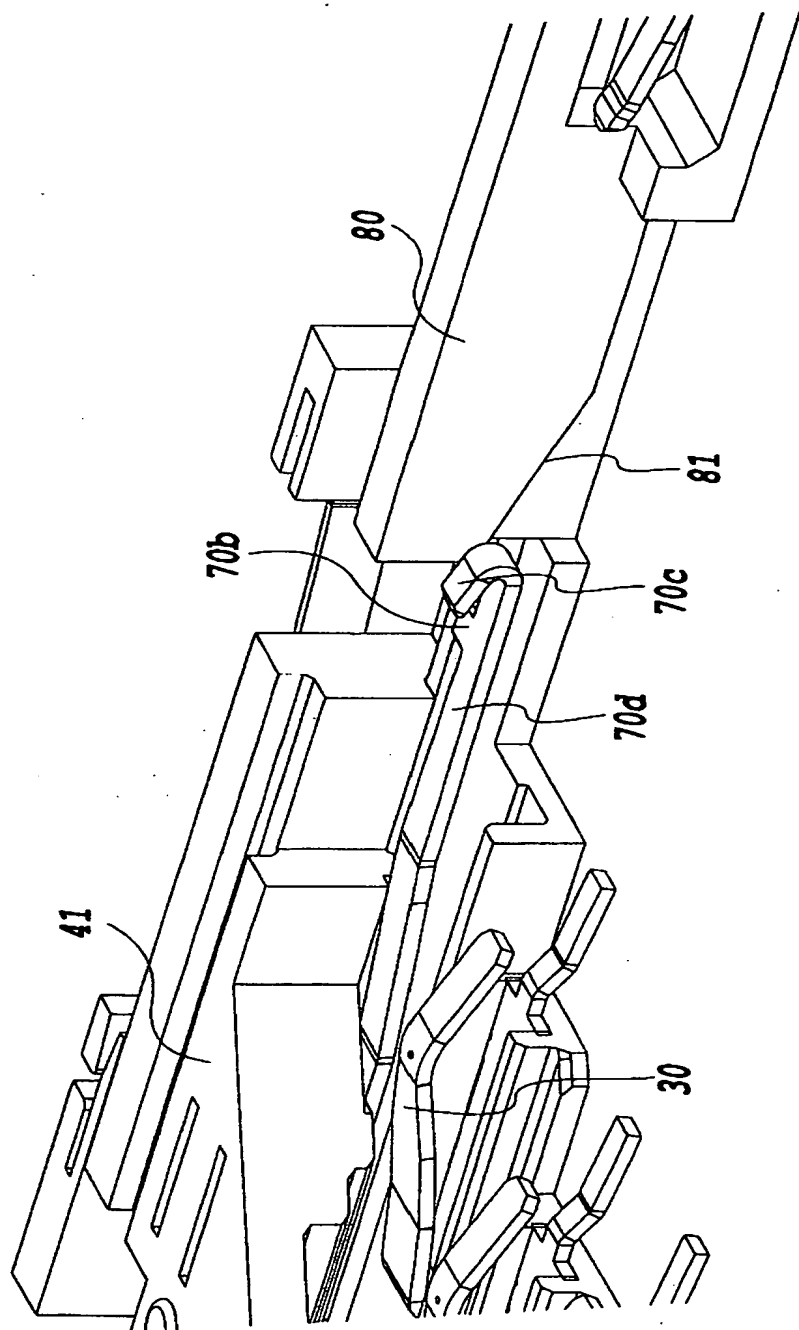
【図17】



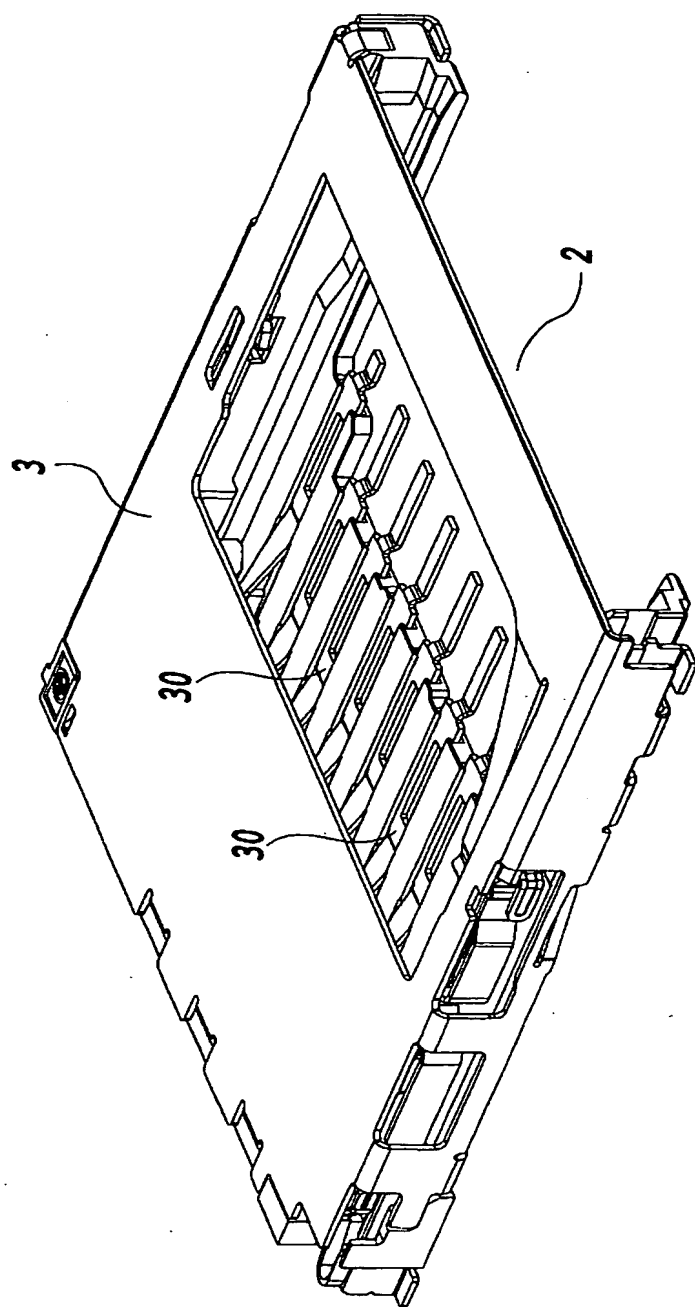
【図18】



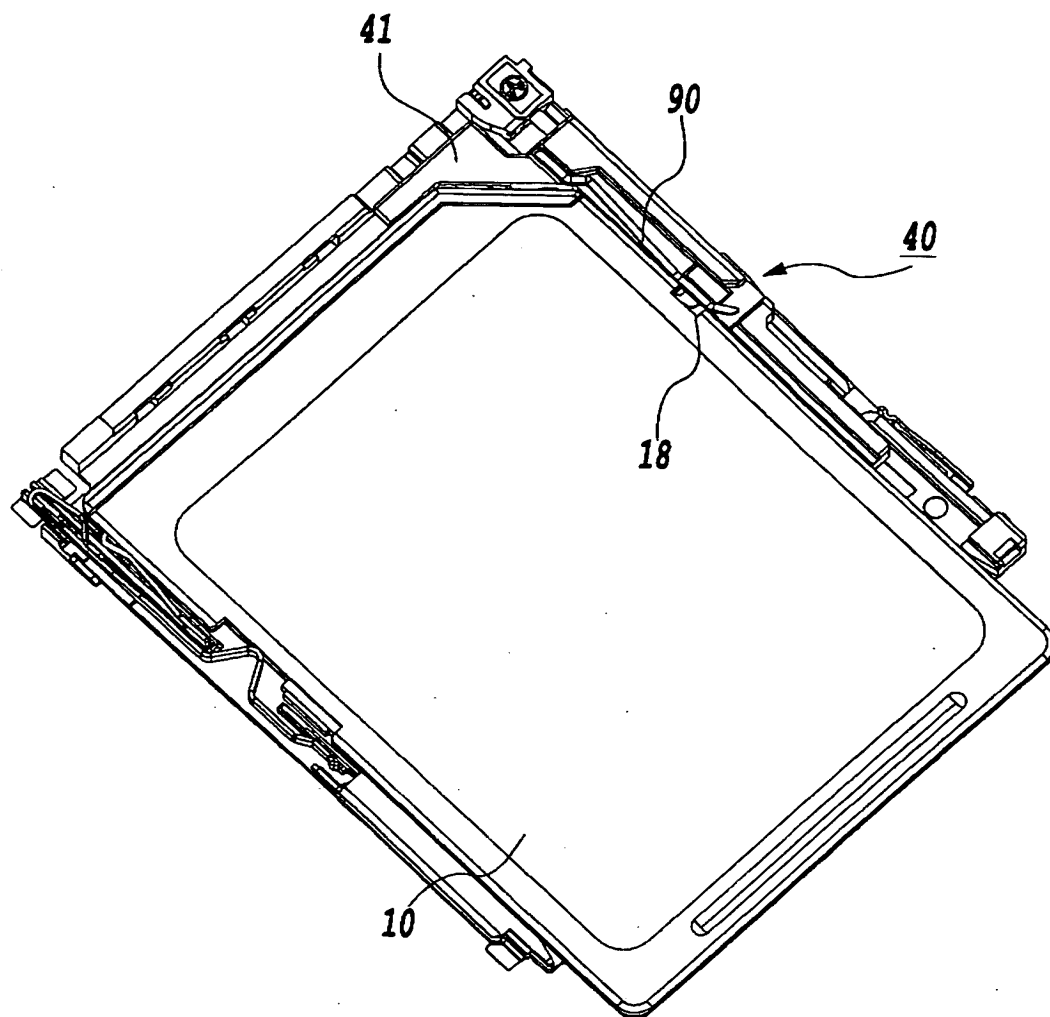
【図19】



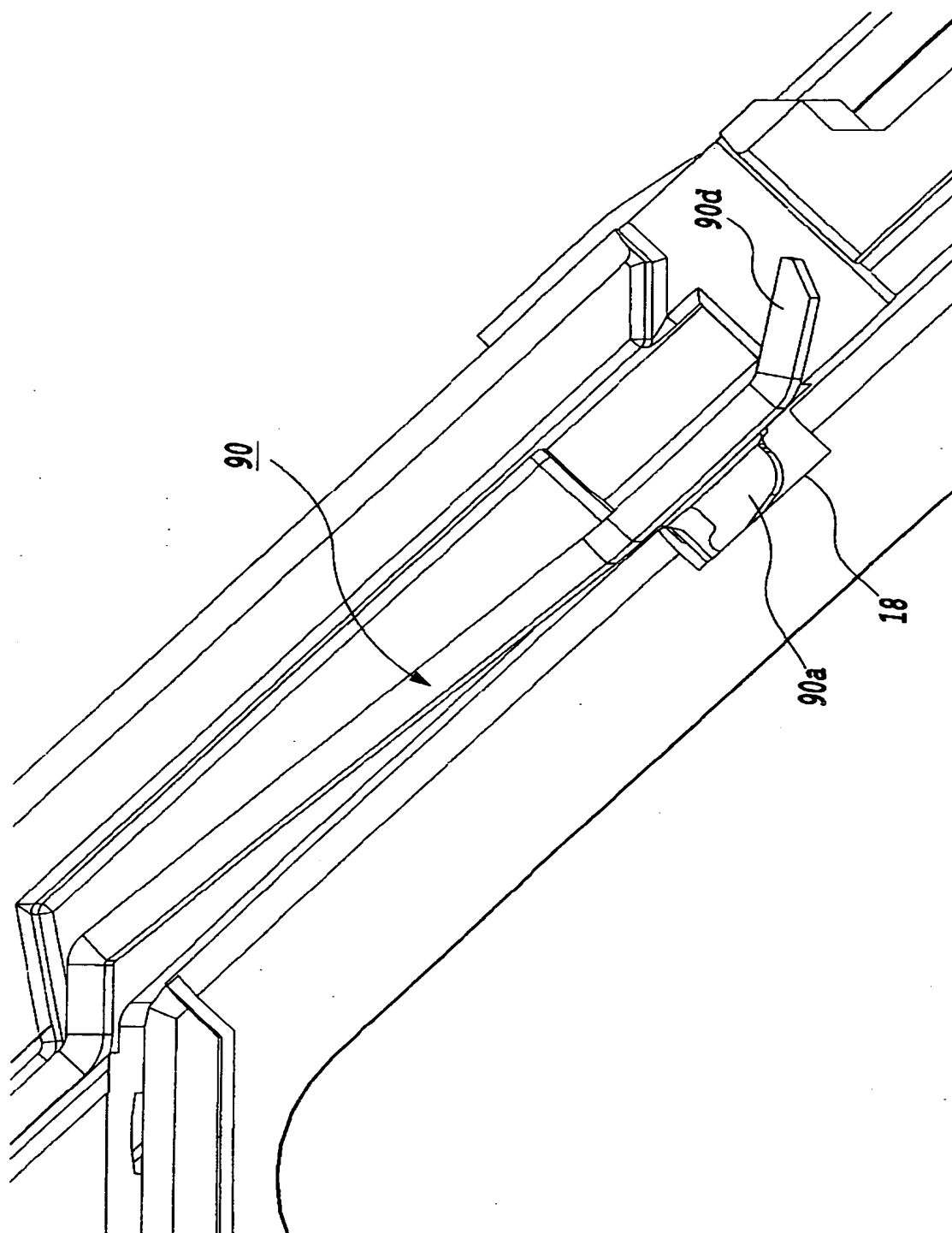
【図 2 0】



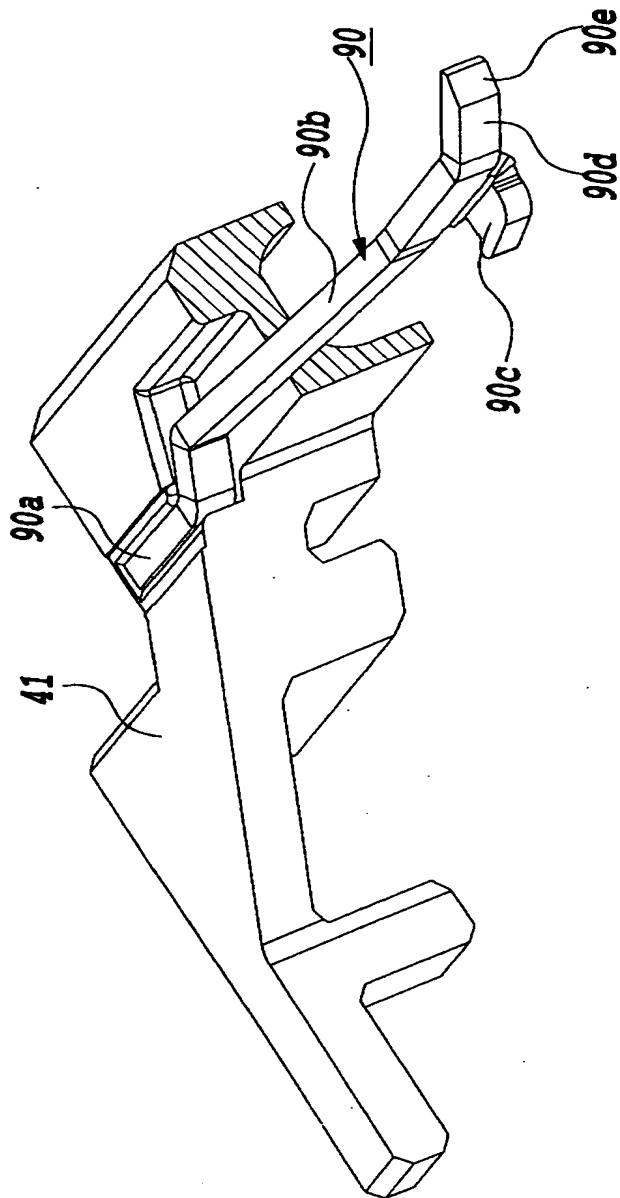
【図 2 1】



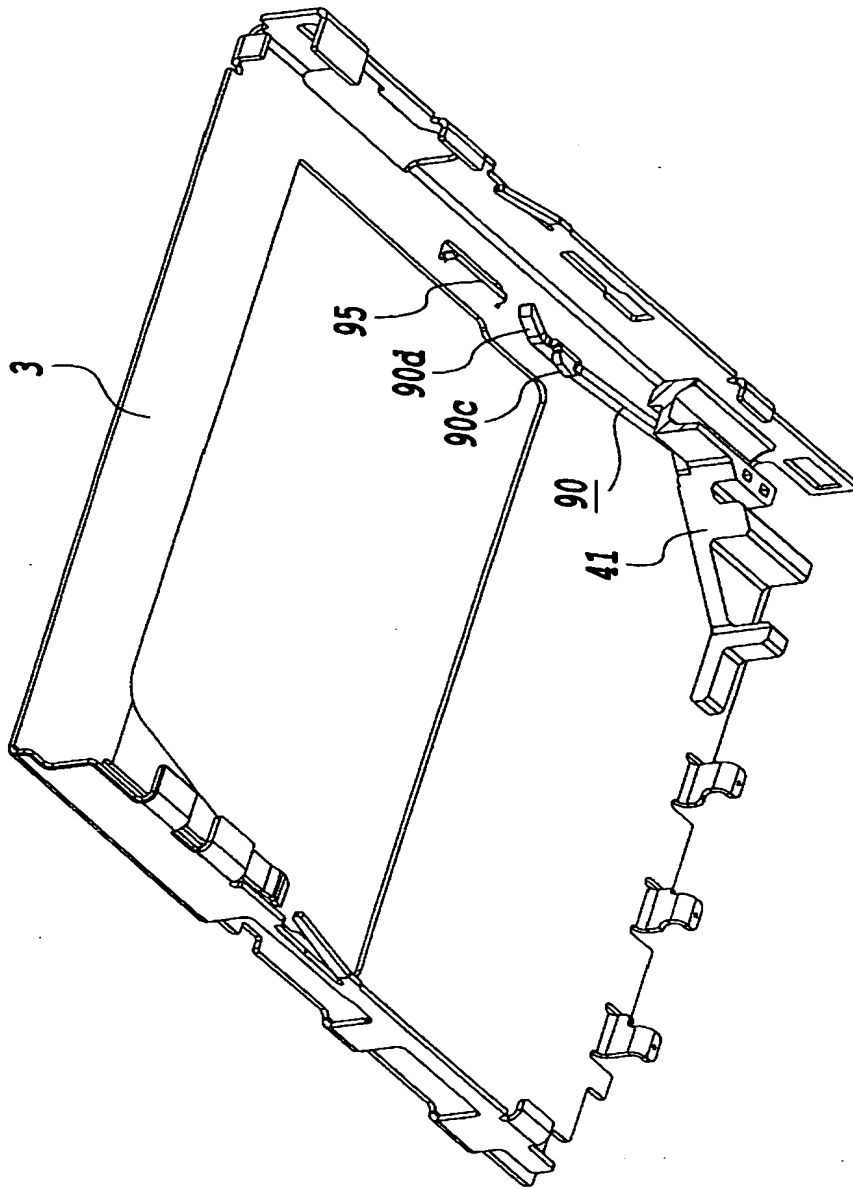
【図 2 2】



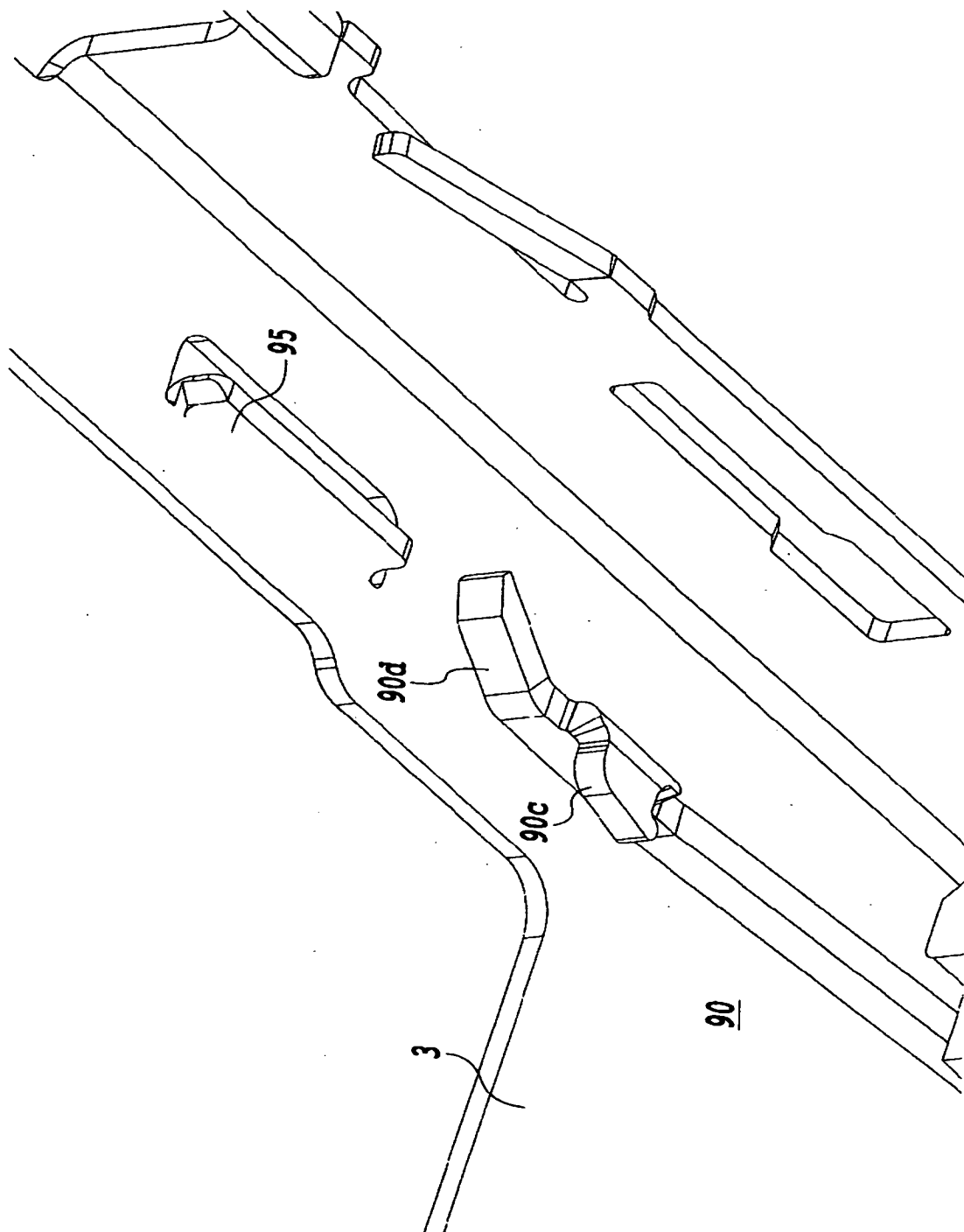
【図 2 3】



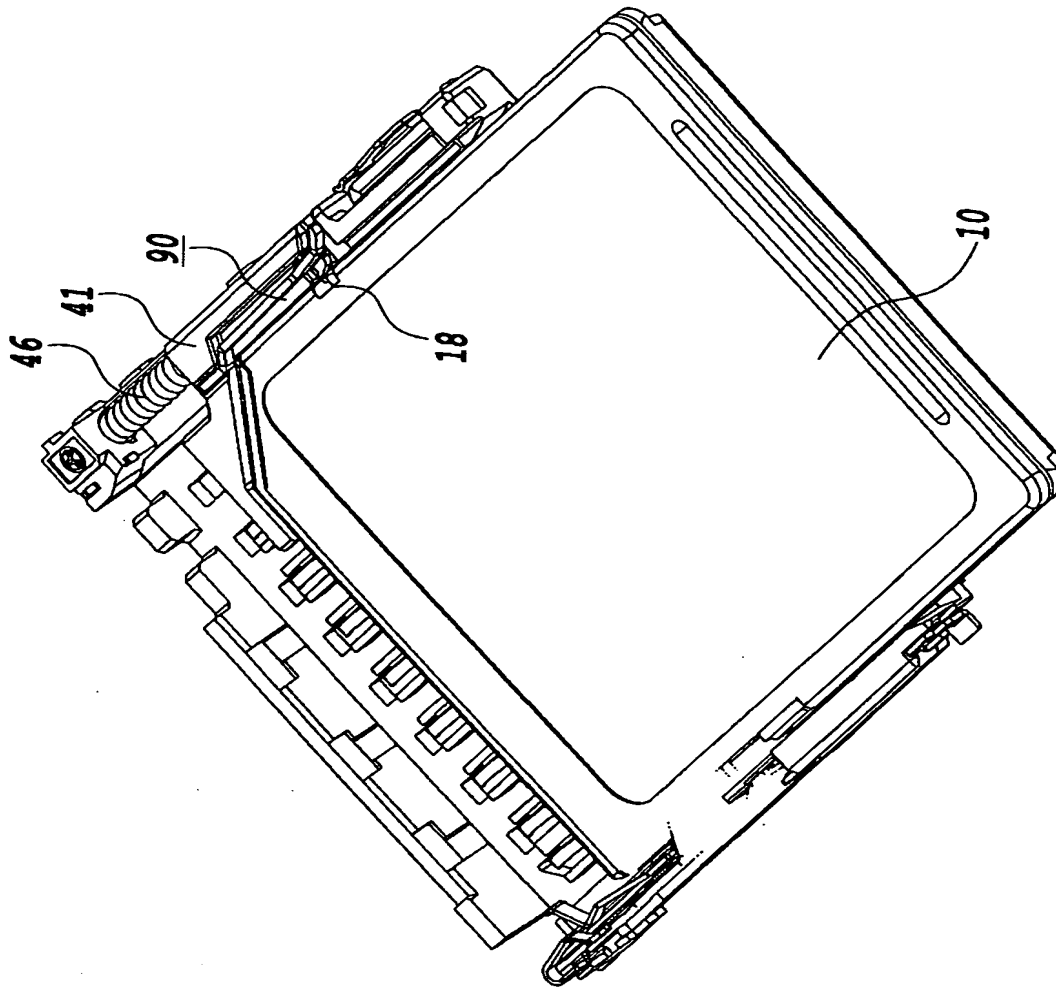
【図 2 4】



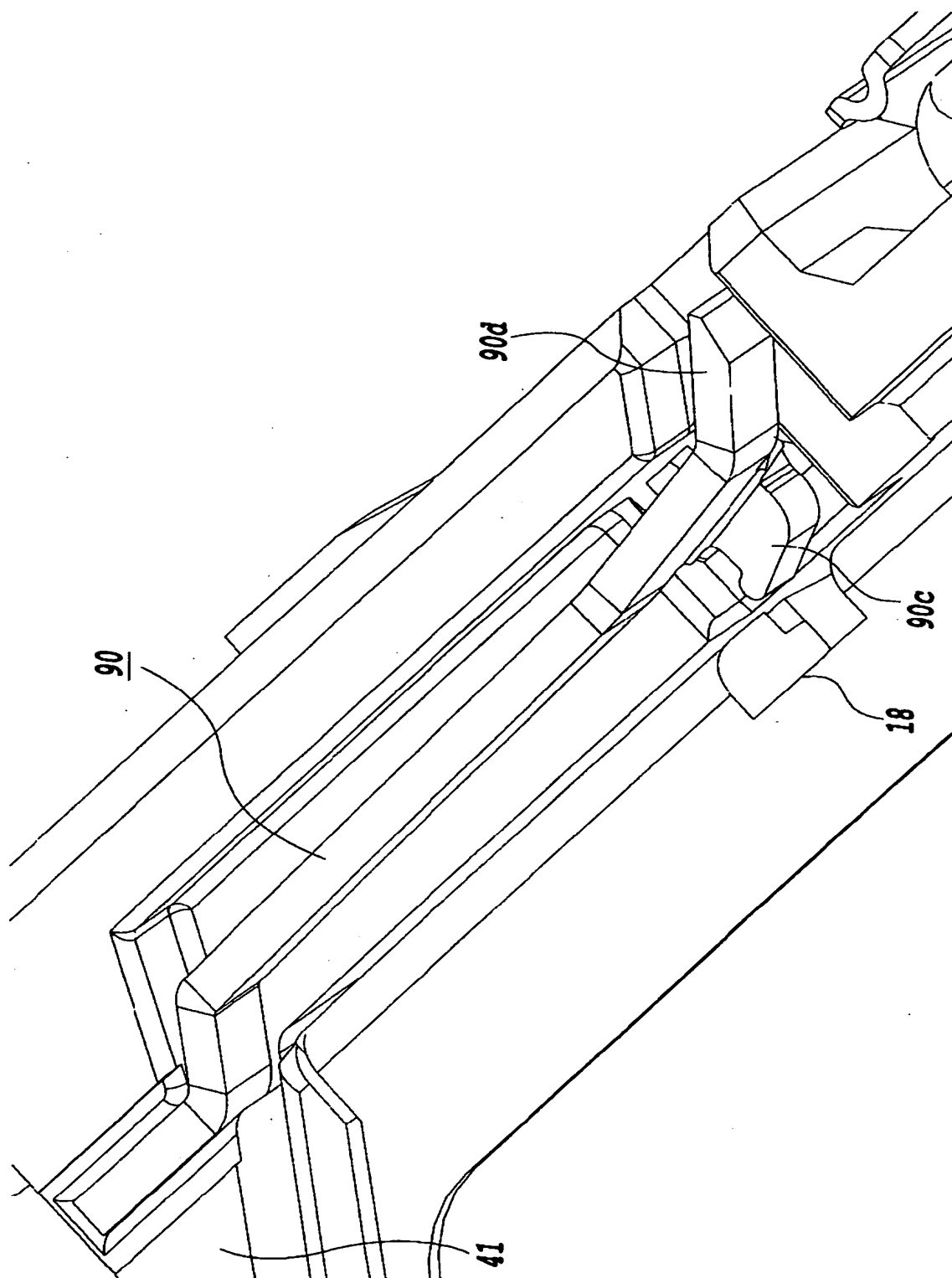
【図 2 5】



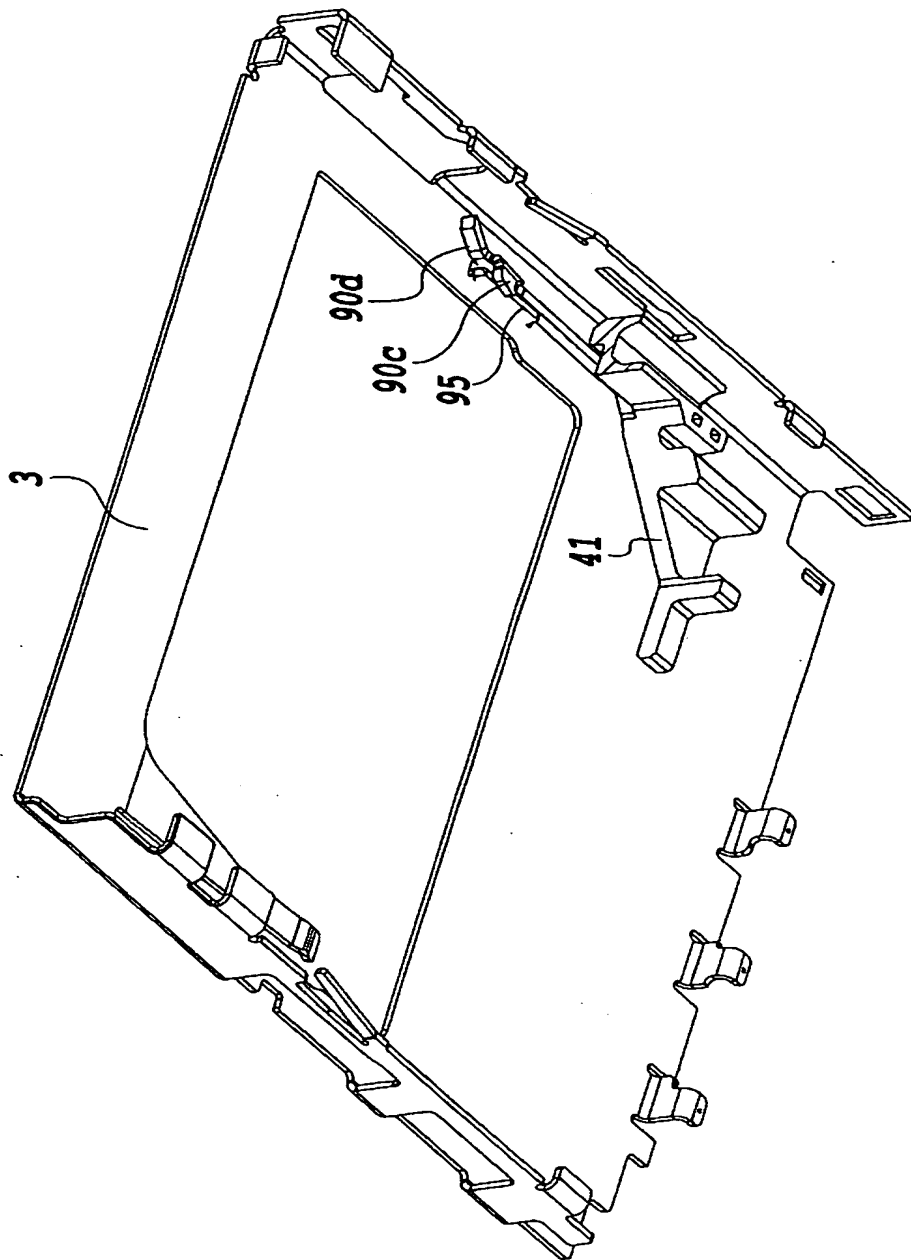
【図 2 6】



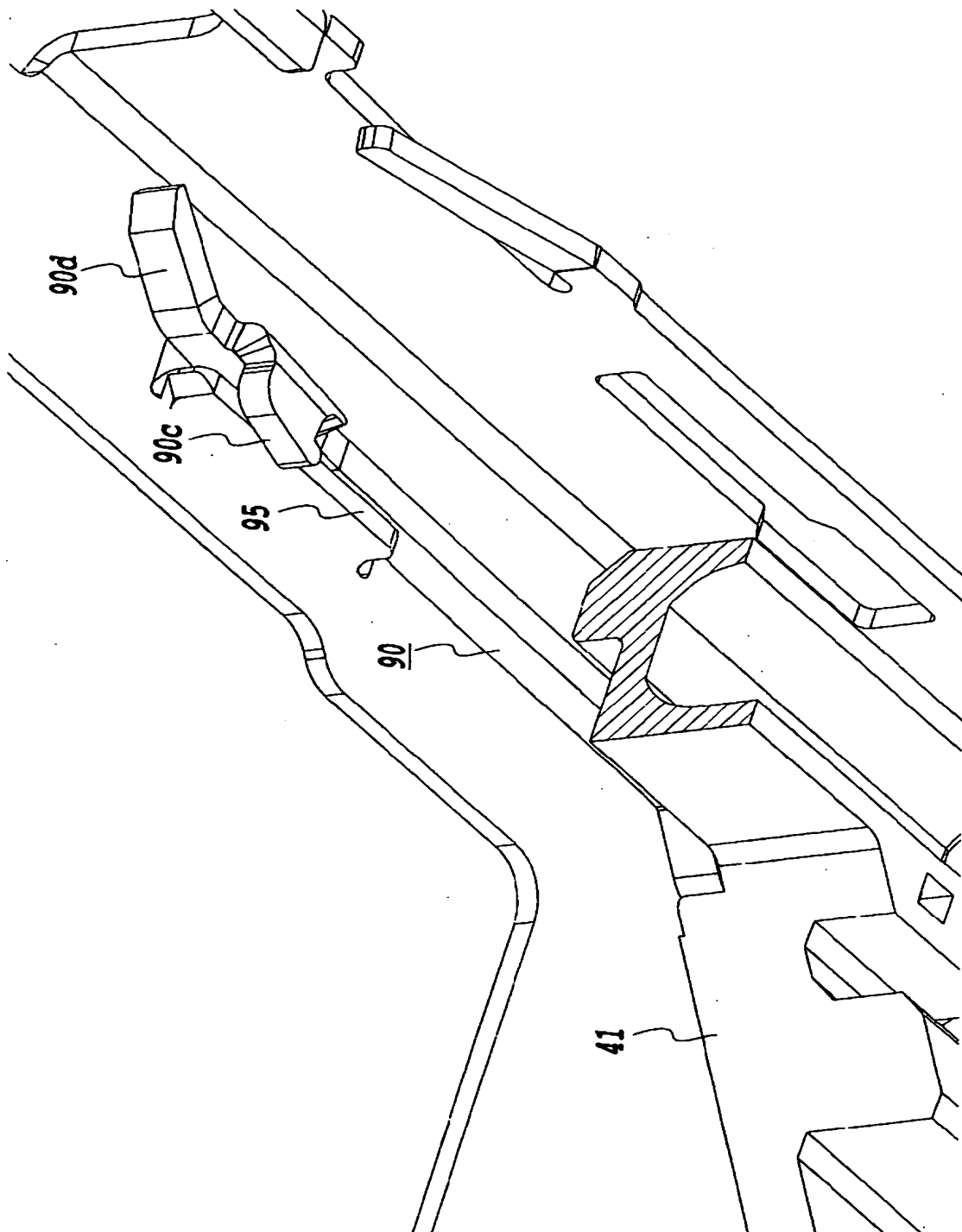
【図 2 7】



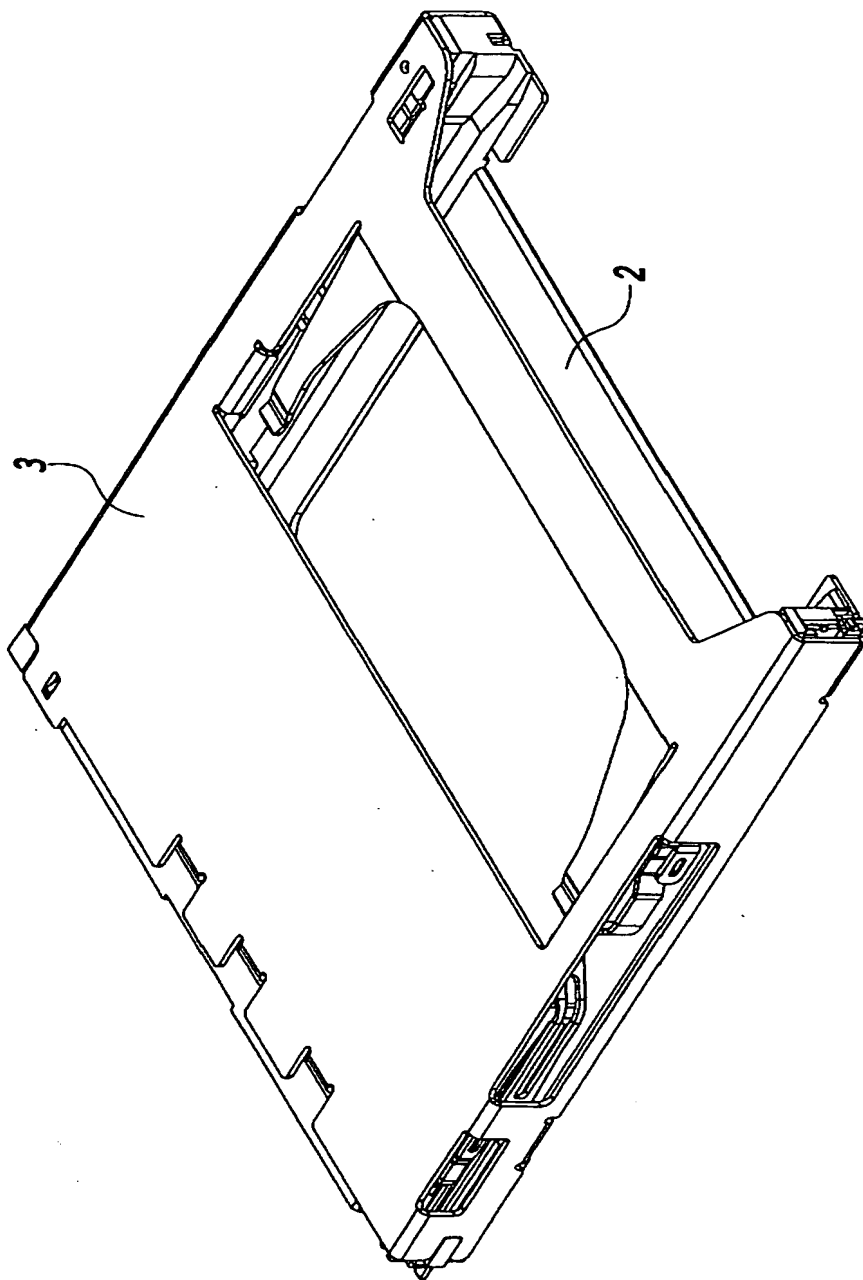
【図28】



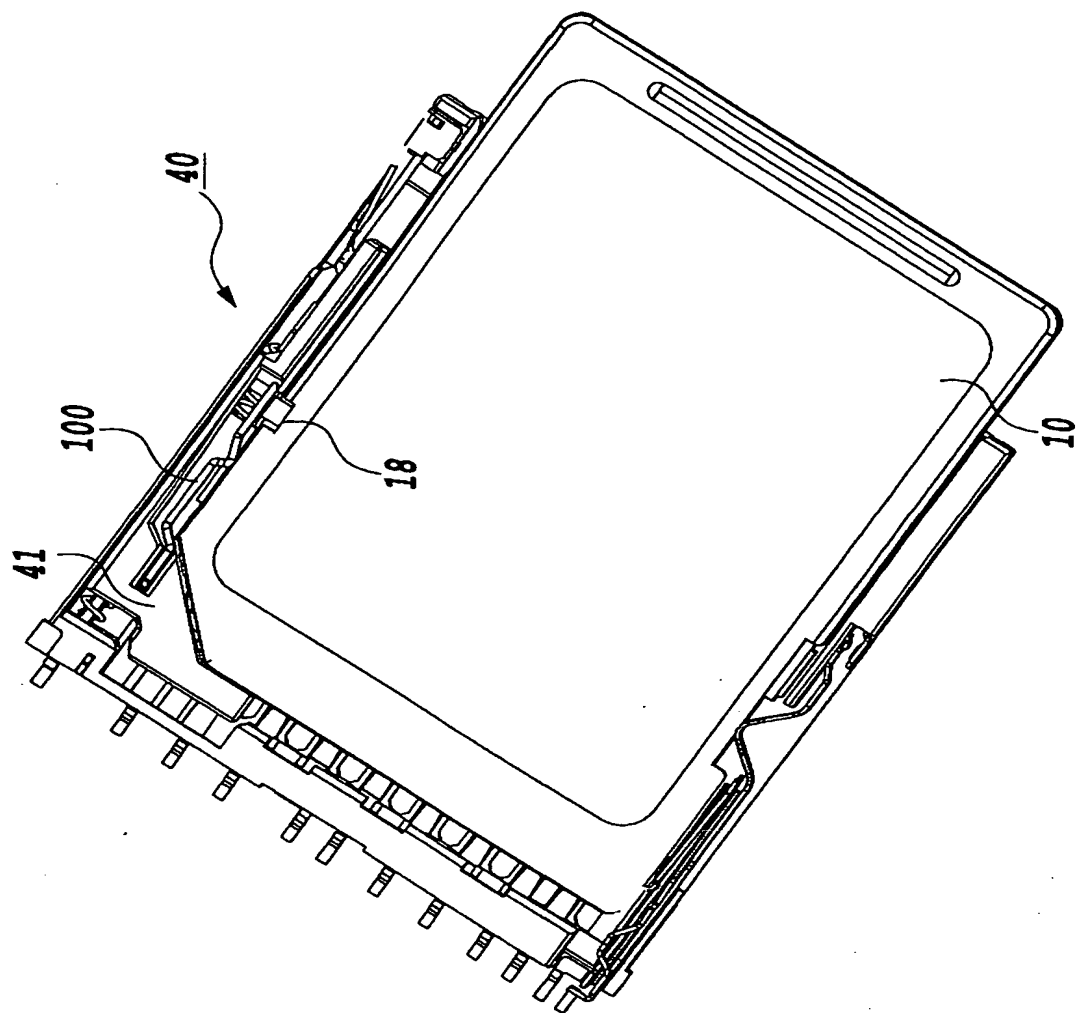
【図 2 9】



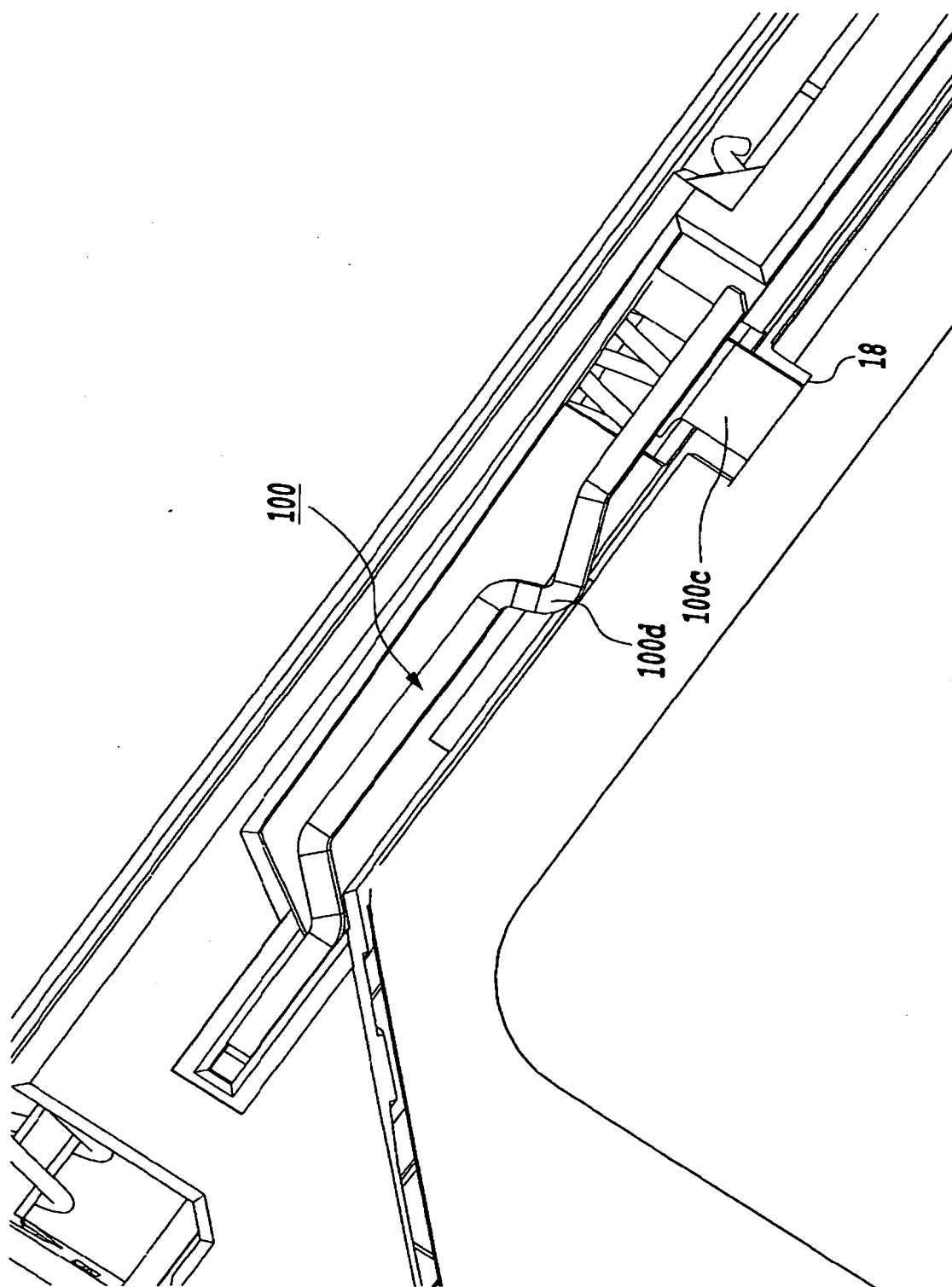
【図30】



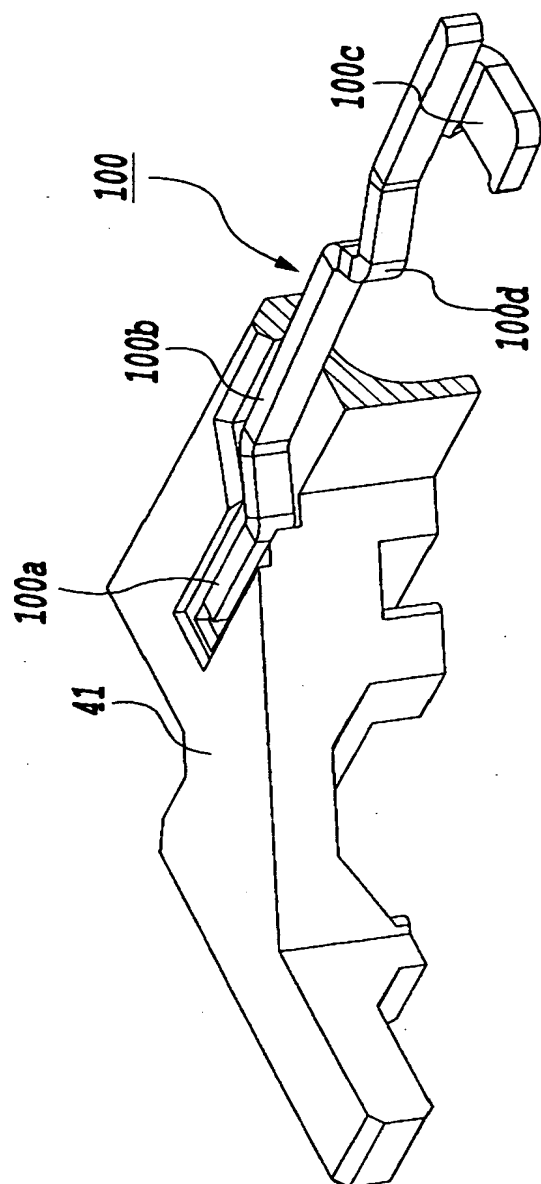
【図 3 1】



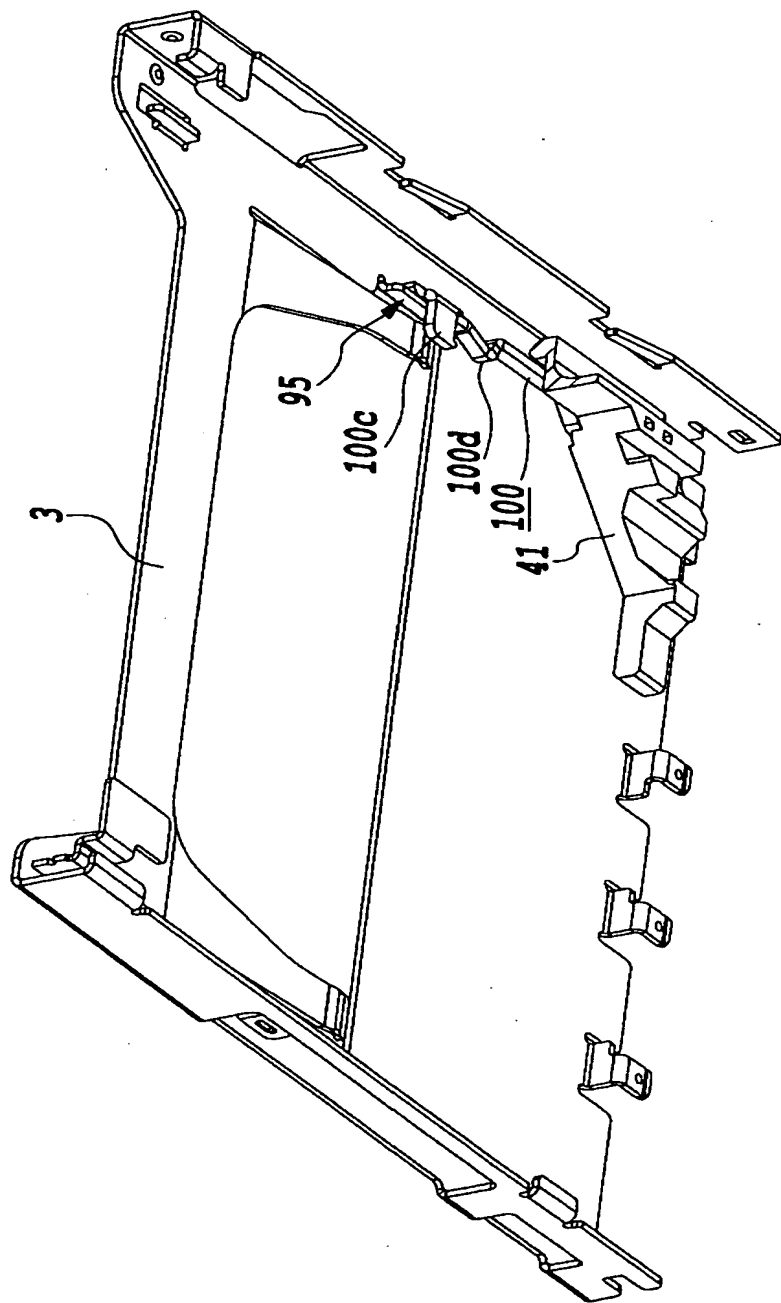
【図 3 2】



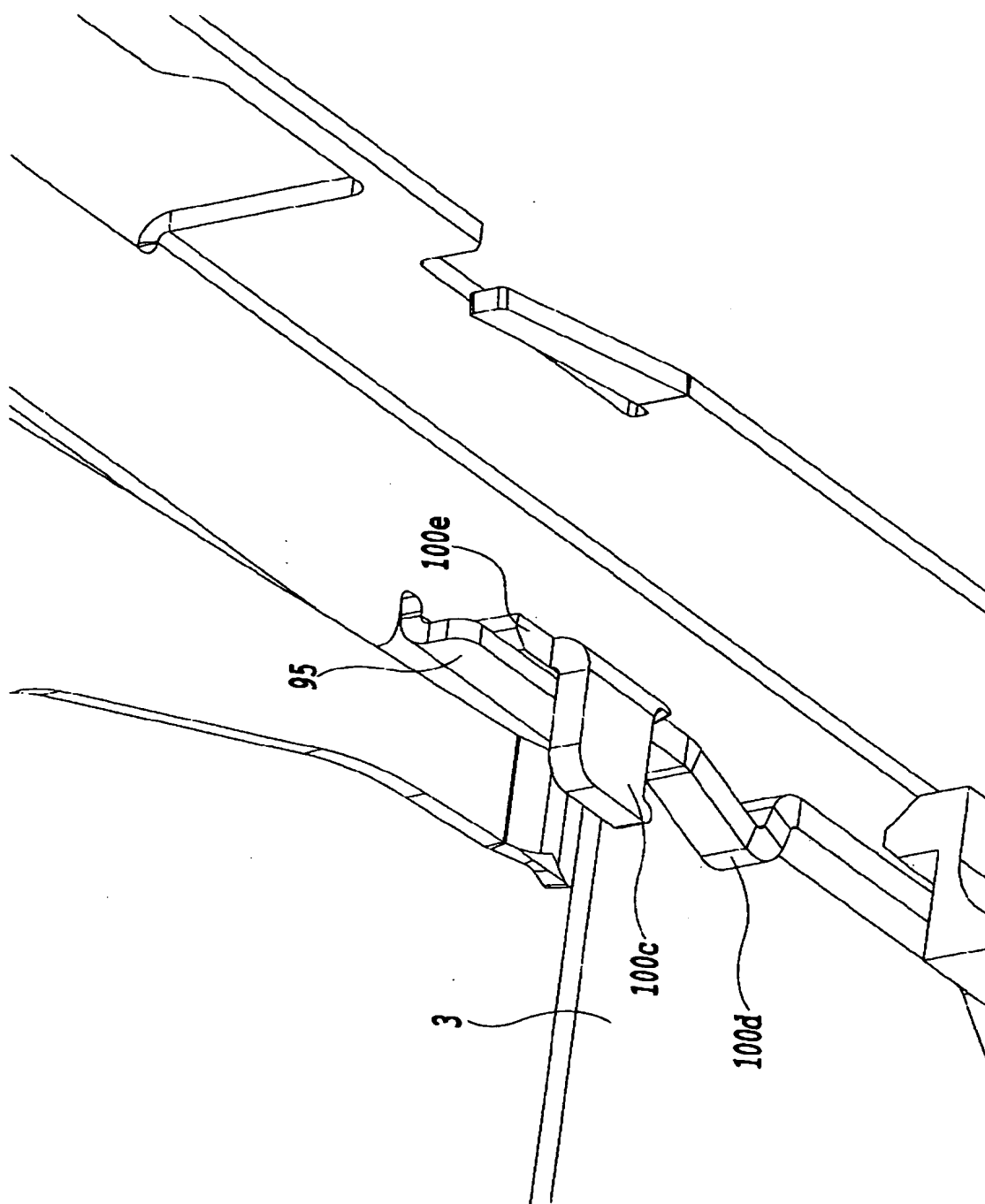
【図 3 3】



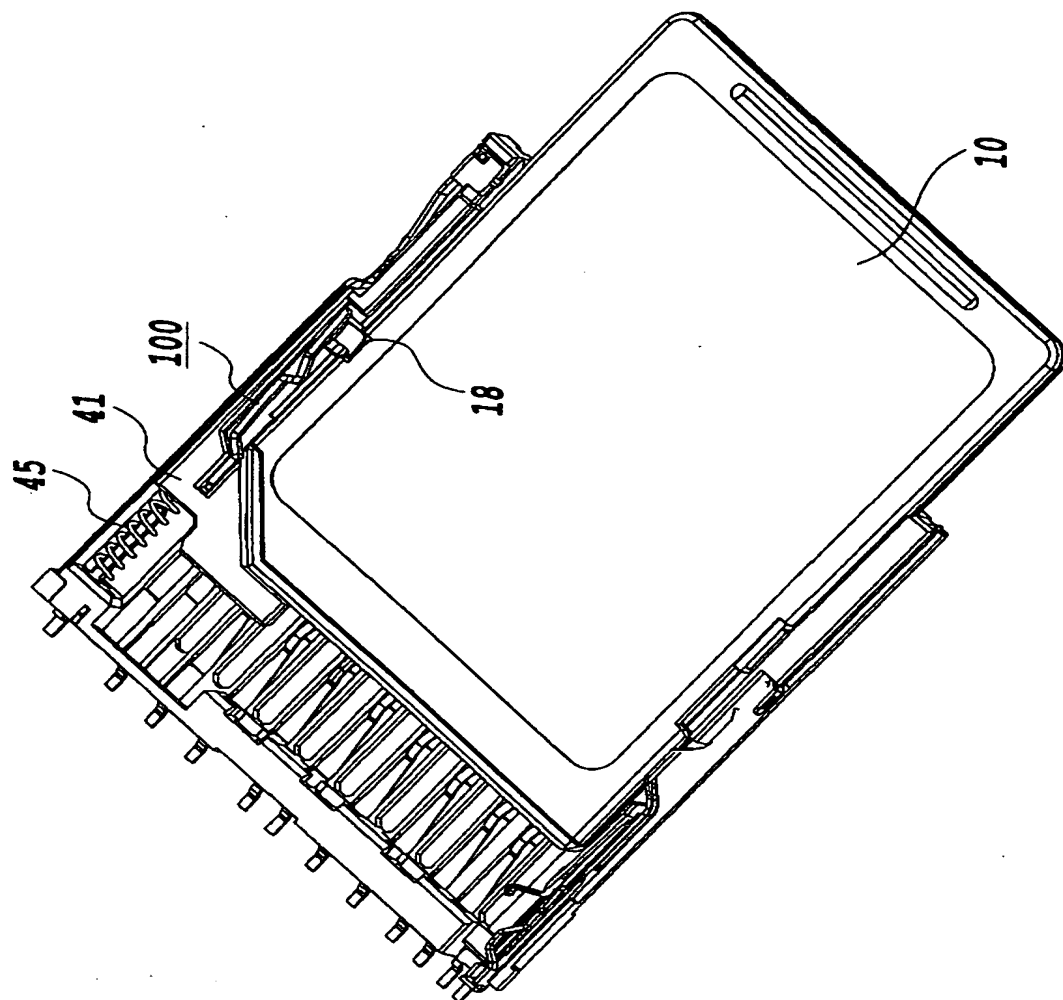
【図34】



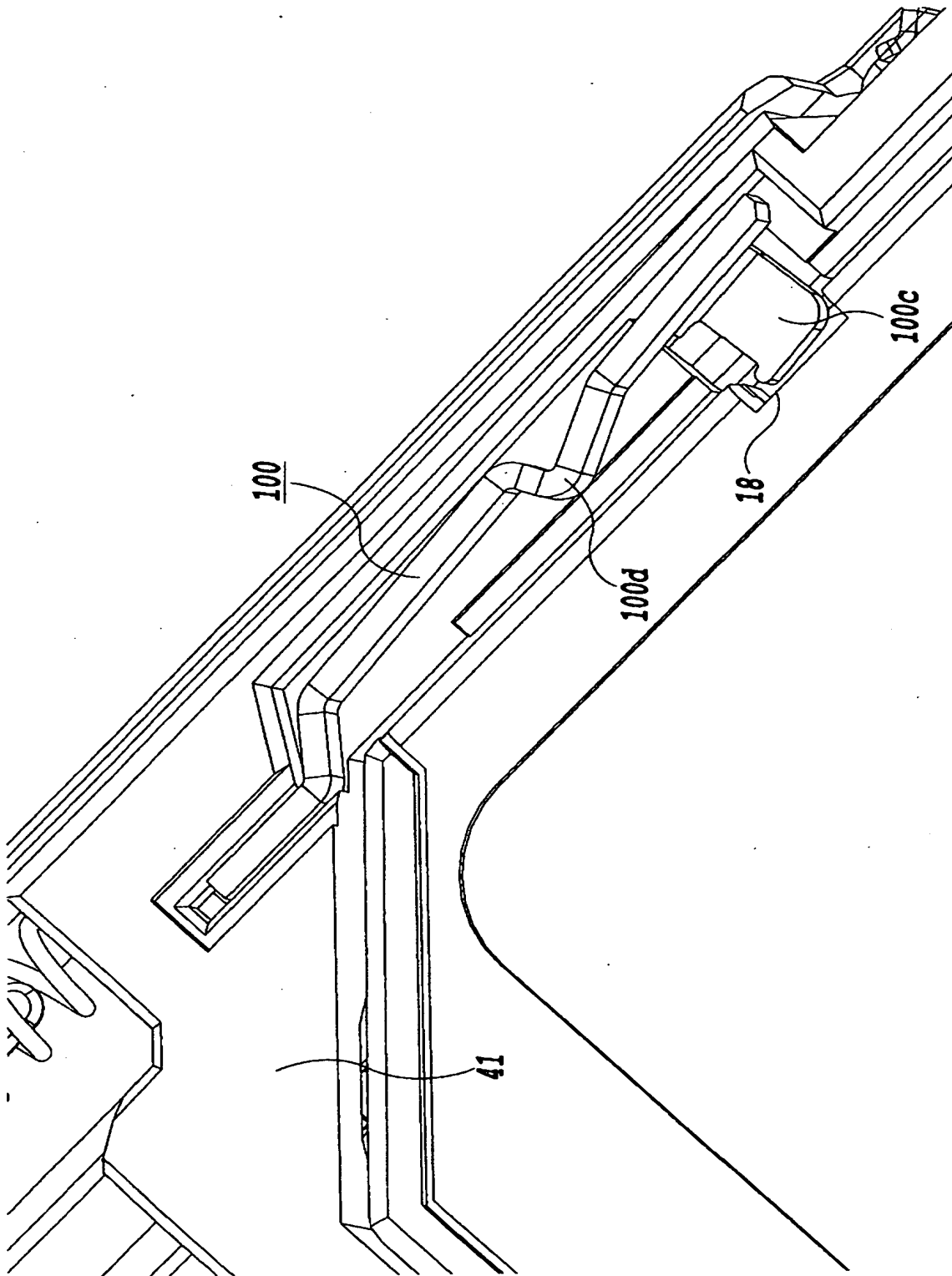
【図 35】



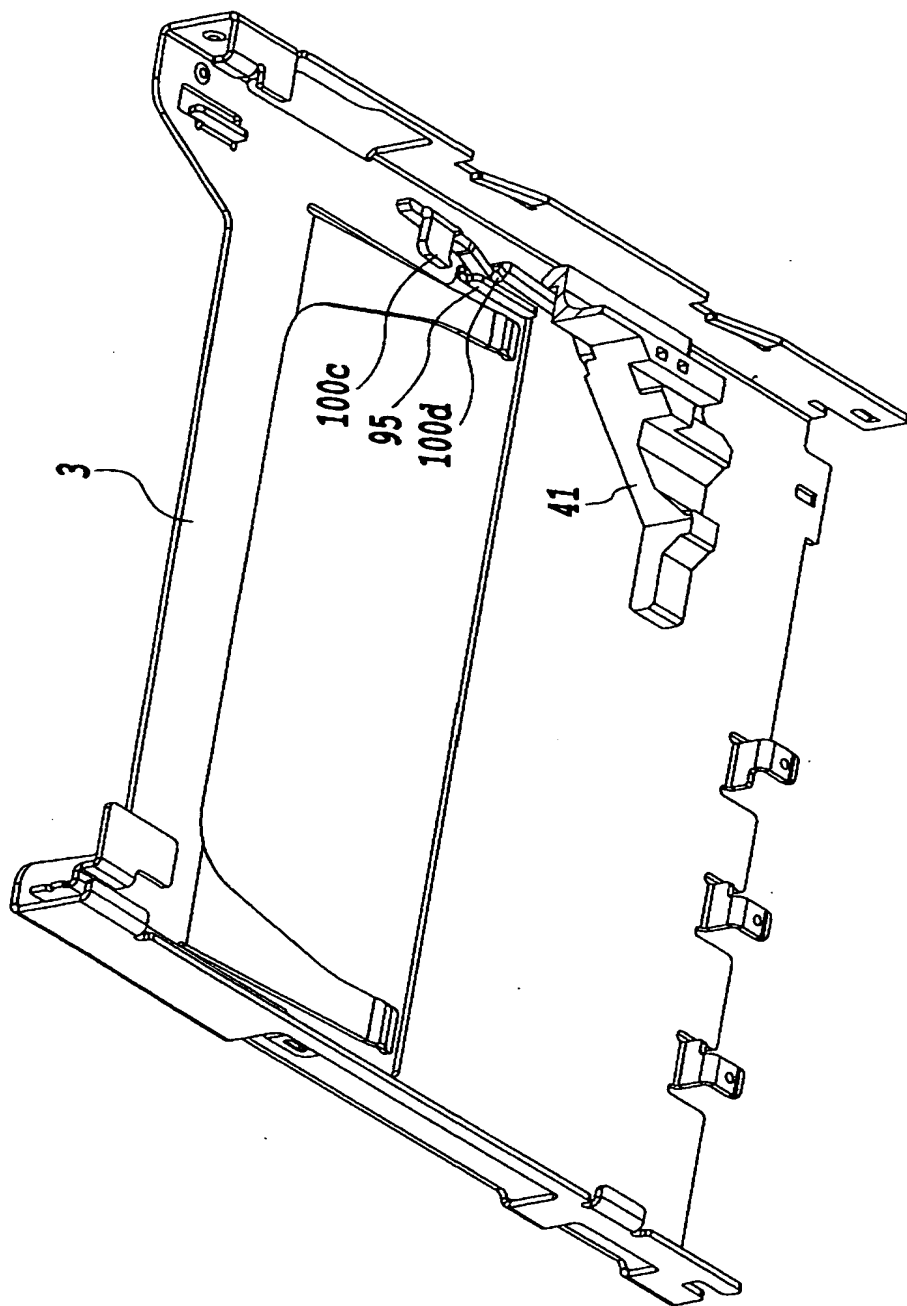
【図 3 6】



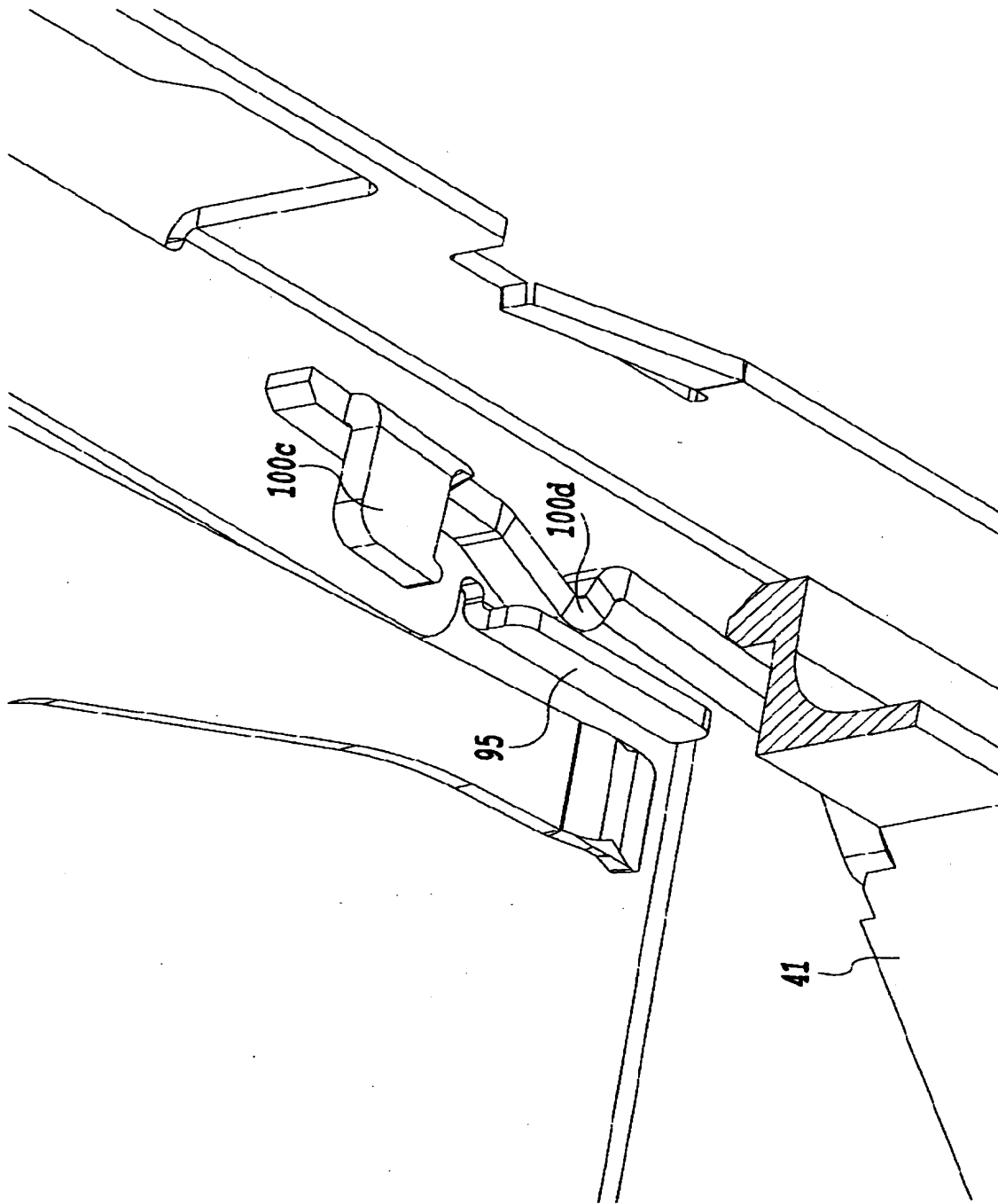
【図 3 7】



【図38】



【図 39】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 装填されたカードをコンパクトな機構によって確実に保持し、予期せぬ外力によるカードの脱落を確実に防止する。

【解決手段】 カード 1 0 にロック片係止用の切欠き 1 8 を形成するとともに、カード 1 0 の挿脱に伴ないカード 1 0 と同様にスライドするイジェクト部材 4 1 に弾性ロック片 5 0 を取り付ける。ロック片案内手段 5 0 b、6 1 によってイジェクト部材 4 1 のカード挿脱方向の動きを弾性ロック片 5 0 の係止部 5 0 c のカード接離方向の動きに変換して、カード挿入の際には係止部 5 0 c を切欠きへ係合させ、カードイジェクトの際には係止部 5 0 c を切欠き 1 8 から解放する。

【選択図】 図 9

認 定 ・ 付 加 情 報

特許出願の番号	特願 2 0 0 0 - 3 2 6 0 1 9
受付番号	5 0 0 0 1 3 8 0 9 7 2
書類名	特許願
担当官	第四担当上席 0 0 9 3
作成日	平成 1 2 年 1 0 月 3 0 日

< 認定情報・付加情報 >

【特許出願人】

【識別番号】	000177690
【住所又は居所】	東京都大田区中馬込 3 丁目 2 8 番 7 号
【氏名又は名称】	山一電機株式会社

【代理人】

申請人

【識別番号】	100077481
【住所又は居所】	東京都港区赤坂 2 丁目 6 番 2 0 号 谷・阿部特許事務所

【氏名又は名称】	谷 義一
----------	------

【選任した代理人】

【識別番号】	100088915
【住所又は居所】	東京都港区赤坂 2 丁目 6 番 2 0 号 谷・阿部特許事務所

【氏名又は名称】	阿部 和夫
----------	-------

【選任した代理人】

【識別番号】	100106998
【住所又は居所】	東京都港区赤坂 2 丁目 6 番 2 0 号 谷・阿部特許事務所

【氏名又は名称】	橋本 傳一
----------	-------

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000177690]

1. 変更年月日	1991年 2月26日
[変更理由]	名称変更
住 所	東京都大田区中馬込3丁目28番7号
氏 名	山一電機株式会社